

西 田 Ⅲ 遺 跡

都市計画道路横手鶴光路線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1 9 9 9

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

西田Ⅲ遺跡

都市計画道路横手鶴光路線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1999

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序

北に赤城山、西に榛名山、南西に妙義山の上毛三山がそびえ、その赤城山と榛名山の裾野の間を南北に利根川が流れる、水と緑にあふれた地に前橋市はあります。

前橋は古代より文化に富んだ地で、東国の奈良と称されています。今から二万八千年前の旧石器から9基を数える国指定の古墳、関東の華とうたわれた前橋城、明治からの発展を物語る群馬県庁などの近代遺産を始めとして多くの文化財があります。

自然環境に恵まれたこの地では、人々が古代から生活を営んできた跡が市内いたるところに見られます。古代東国を中心地としての生産力のある土地とも言え、埋蔵文化財の宝庫ともいえます。古代の遺跡の発掘調査による歴史を変える発見が毎年のようにあり、本年の発掘調査でも貴重な資料を得ることができました。

前橋市南部地区は市内でも従来遺跡のあまりない地区と言われてきましたが、古代から近世の遺跡が近年の調査で次々と発見されています。縄文時代早期の土器が徳丸仲田遺跡より発見されるなど、地域の歴史を変える貴重な遺跡も見つかっています。

この前橋南部地区に建設される都市計画道路横手鶴光路線はそのほとんどが遺跡地であり、平成10年度は古墳時代から平安時代の水田跡や住居の跡が発見されました。

前橋南部地区にとっての始めての発見も多く、前橋市の歴史を解明する貴重な資料を得ることができました。発掘調査は今後も続きますが、また新たな発見が期待されます。発掘調査にあたりまして、ご協力いただきました北関東自動車道対策室、県文化財保護課、県埋蔵文化財調査事業団、地元関係者、酷暑のなか調査に従事されました皆様方に感謝とお礼を申し上げます。

平成11年3月15日

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 渡辺勝利

例　　言

1. 本書は、都市計画道路横手鶴光路線道路改良事業に伴い、記録保存のため事前調査された西田Ⅲ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の所在地は群馬県前橋市鶴光路町332-1他である。
3. 発掘調査は前橋市埋蔵文化財発掘調査団から委託を受け山武考古学研究所が実施した。現地調査は前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導のもと山武考古学研究所・近藤晋一郎が担当した。
4. 調査期間は平成10年11月5日～平成11年3月19日である。
5. 調査面積は2,095m²である。
6. 本書の原稿執筆は第1章が宮内毅（前橋市教育委員会）、他の執筆および編集は近藤が行った。
7. 調査に際しては下記の諸機関にご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表するものである。
前橋市北関東自動車道対策室、前橋市教育委員会、東日本重機、J・T空撮、前橋文化財研究所、新成田総合社
8. 発掘調査で得られた出土遺物及び資料は、前橋市教育委員会文化財保護課収蔵庫に保管している。

凡　　例

1. 挿図中に使用した北は座標北である。
2. 揿図に建設省国土地理院発行の1/50,000地形図（『前橋』『高崎』）、前橋市都市計画課発行1/2,500原形図『76』を50%縮小したもの及び、明治21年陸地測量部発行1/20,000地方迅速図（『倉賀野』）を40%縮小したものを使用した。
3. 遺跡の略称番号は10G-31である。
4. 本文に記載した遺構、遺物実測図の縮尺は以下の通りである。
遺構　掘立柱建物跡…1/40　溝跡…1/60　畦畔…1/40　井戸跡…1/20　遺構位置図…1/300
土坑…1/20　河川跡…1/80
遺物　土器・石器…原寸、1/3
5. 使用したスクリントーンは次の通りである。

施釉……



煤跡……



目 次

本 文 目 次

序

例 言

凡 例

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の位置と環境	
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の方法と経過	
第1節 調査の方法	4
第2節 調査の経過（日誌抄）	4
第3節 標準堆積土層	6
第4章 検出された遺構	
第1節 概要	8
第2節 古墳時代	8
第3節 平安時代	12
第4節 平安時代末～中・近世	13
第5章 出土した遺物	
第1節 縄文時代	22
第2節 古墳時代	22
第3節 平安時代	22
第4節 中世・近世	22
第6章 まとめ	29
抄録	

挿図目次

第1図 西田Ⅲ遺跡調査区域図	1	第11図 浅間B軽石層下水田跡・3号溝跡・ 1号柵列跡・2号土坑	17
第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡	2	第12図 1・5号溝跡、1・3号土坑	19
第3図 遺跡の位置	2	第13図 1号井戸跡	20
第4図 標準堆積土層	6	第14図 1・2・3・4号河川跡	21
第5図 古墳時代遺構位置図	7	第15図 出土遺物①	23
第6図 2・6・7・8号溝跡	9	第16図 出土遺物②	24
第7図 平安時代遺構位置図	11	第17図 出土遺物③	25
第8図 4・5号土坑	12	第18図 出土遺物④	26
第9図 平安時代末～中・近世遺構位置図	14		
第10図 1・2号掘立柱建物跡	15		

写真図版目次

P L 1 周辺の地形	P L 8 5号溝跡・2号土坑・2号土坑土層堆積状況・浅間B軽石層下水田跡凹凸集中部分・浅間B軽石層混土層下面①・浅間B軽石層混土層下面②・浅間B軽石層混土層下面西壁土層堆積状況・1号掘立柱建物跡
P L 2 調査区南側第2面全景・調査区北側第1面全景	P L 9 1・2号掘立柱建物跡全景、1号掘立柱建物跡・2号掘立柱建物跡・1号柵列跡
P L 3 調査区南側および北側標準堆積土層	P L 10 ピット土層堆積状況、柵列・3号ピット、柵列・15号ピット、2号畦畔内ピット、柵列・3号溝内ピット・1号土坑・1号土坑土層堆積状況・3号土坑
P L 4 2・8号溝跡全景・6号溝跡①・6号溝跡②・6号溝跡③・6号溝跡④・6号溝跡⑤ 6号溝跡西壁断面土層堆積状況①・6号溝跡西壁断面土層堆積状況②	P L 11 1号溝跡・1号溝跡東壁断面土層堆積状況・1・2・8号溝跡・1号井戸跡・1号井戸跡土層堆積状況・1～4号河川跡①・1～4号河川跡②、3号河川跡東壁断面土層堆積状況
P L 5 6号溝跡土層堆積状況・7号溝跡・7号溝跡土層堆積状況・6・8号溝跡、6～8号溝跡、4号土坑・4号土坑土層堆積状況・5号土坑	P L 12 調査区より赤城山を望む・出土遺物①
P L 6 浅間B軽石層下水田跡①・浅間B軽石層下水田跡②・浅間B軽石層下水田跡③・1号畦畔・2号畦畔①	P L 13 出土遺物②
P L 7 2号畦畔②・3号畦畔・4号畦畔・1号畦畔東壁断面土層堆積状況・4号畦畔東壁断面土層堆積状況・3号溝跡・3号溝跡北壁断面土層堆積状況 3号溝跡東壁断面土層堆積状況	P L 14 出土遺物③

表 目 次

表1 石器観察表	27	表2 土器観察表	27
----------	----	----------	----

第1章 調査に至る経緯

北関東自動車道に係わる埋蔵文化財発掘調査は群馬県埋蔵文化財調査事業団により平成7年度から行われている。本市においても、本線北側に都市計画道路 横手鶴光路線の道路改良が予定されており、本線同様、埋蔵文化財包蔵地での工事に際しては事前の発掘調査が必要となった。

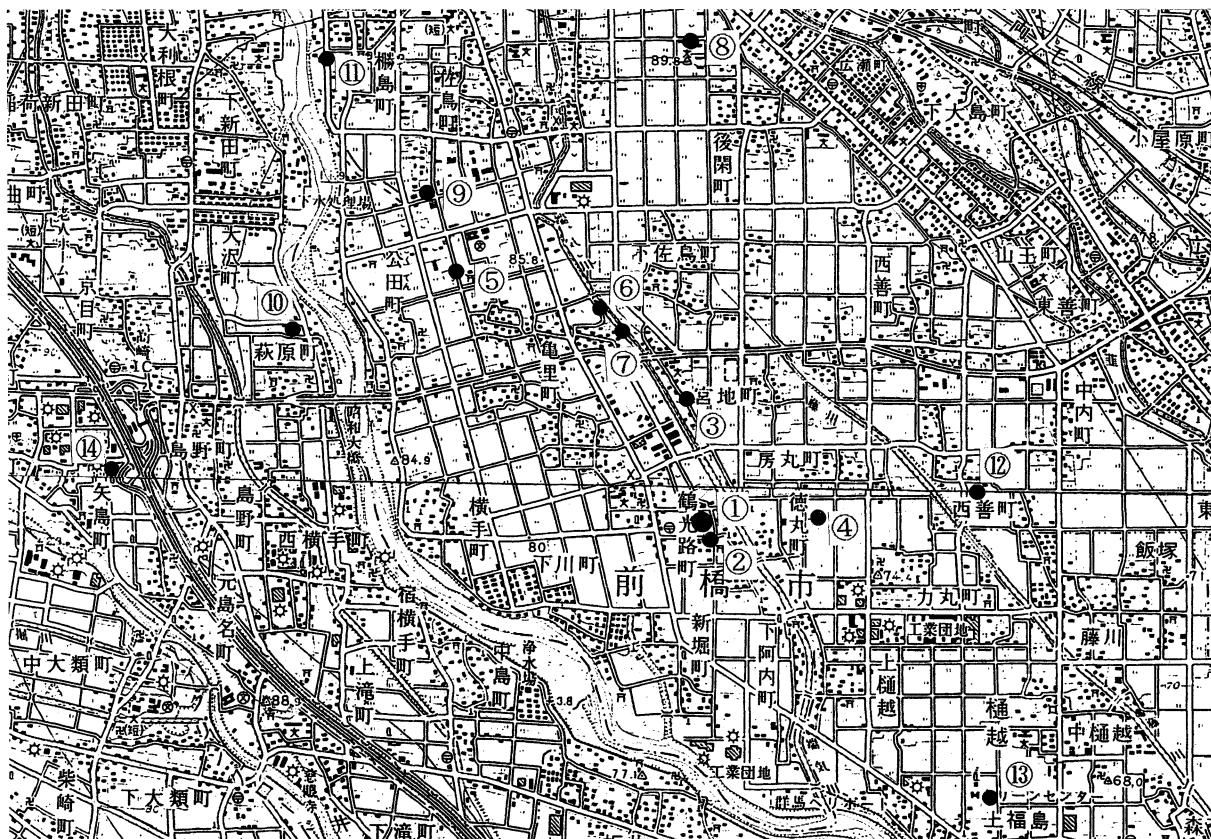
このため、平成9年度から前橋市北関東自動車道対策室より発掘調査の依頼を受け、都市計画道路 横手鶴光路線の発掘調査を開始し、横手湯田遺跡・西田遺跡の両遺跡の調査を行い成果を得ている。

今年度の調査は、平成10年9月30日付けで前橋市長 萩原弥惣治より前橋市教育委員会あてに都市計画道路横手鶴光路線道路改良事業に伴う本発掘調査の依頼がなされ、前橋市教育委員会が組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団がこれを受諾し、10月21日両者の間で本発掘調査の委託契約が締結された。

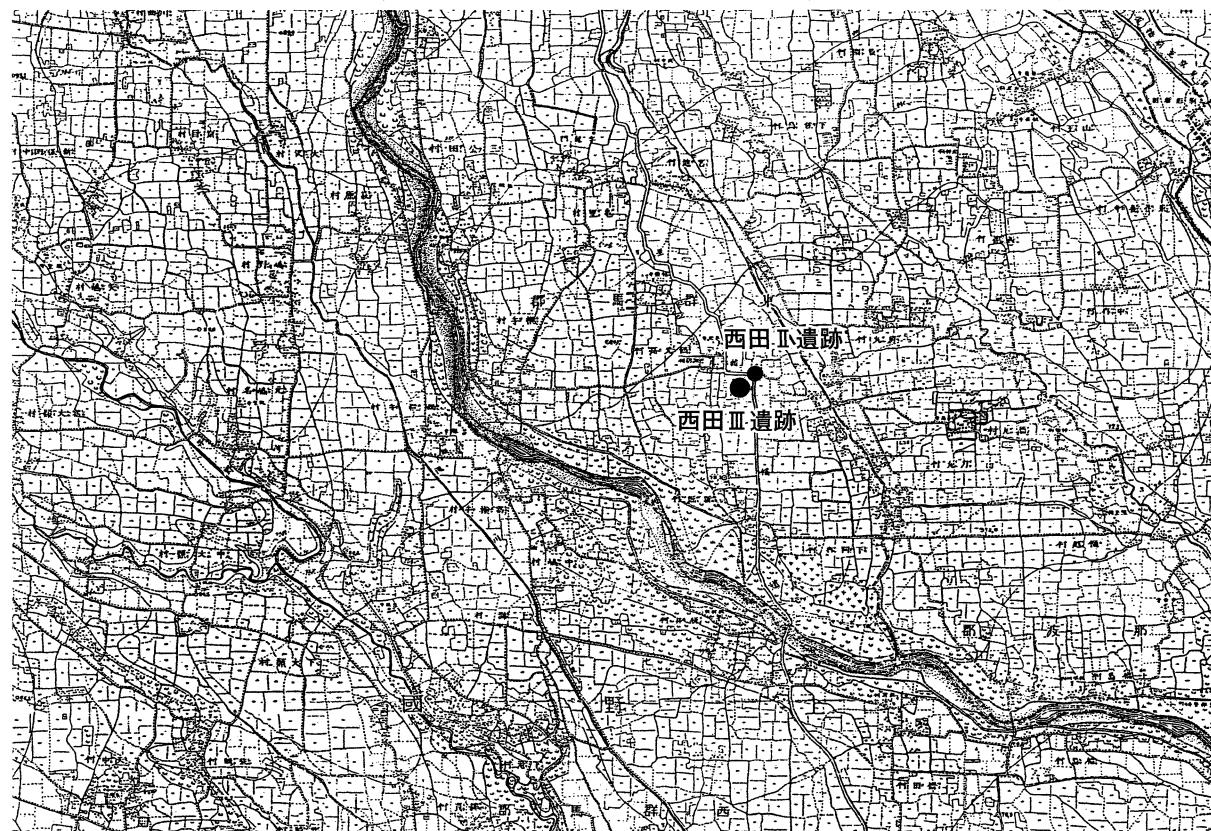
その後、前橋市埋蔵文化財発掘調査団は本発掘調査の委託契約を11月5日付で山武考古学研究所と締結し、発掘調査は前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導のもと、平成11年3月19日までの調査期間で実施された。



第1図 西田Ⅲ遺跡調査区域図（前橋市都市計画課発行2,500分の1、原形図「76」を50%縮小）



第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡（国土地理院作成5万分の1「前橋・高崎」）



第3図 遺跡の位置（明治21年陸地測量部発行、地方迅速図2万分の1を40%縮小）「倉賀野」

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

本遺跡はJR前橋駅より南東へ約7kmの鶴光路町に位置する。群馬県のほぼ中央部には西に榛名山、東に赤城山と二つの成層火山が位置する。この二つの火山の山麓間を利根川が南流する。この利根川によりつくられた緩傾斜の低台地が、前橋台地である。地質的には主に約2万年前の浅間山の山体崩壊に起因する泥流堆積物とその上に堆積する水成ローム層により構成されている洪積台地である。前橋台地は、榛名山の南東麓より赤城山の南西にかけて広がっている台地であるが、別名「前橋・高崎台地」と呼ばれていることからもわかるように、南流する利根川により左右に分断され、右岸に高崎市、左岸に前橋市と群馬を代表する人口密集地帯を抱えている。本遺跡はこの前橋台地のほぼ中央部に位置する。本遺跡より南西約1.6km付近を利根川が南東へ向かって流れ、また、遺跡の東側約0.25km付近を端気川が南東へと流れ、利根川に合流する。なお、現在の利根川の流路は、室町時代後期の天文年間に起きた数度の洪水により、現在の位置へと変わっていたと考えられており、それまでは、現在の前橋市の東縁、通称広瀬川低地帯と呼ばれる部分を流れていたと推測されている。地形的には前橋台地上には6世紀の榛名山の噴火の影響をうけて河川沿いには自然堤防が発達し、また端気川や藤川などの小河川沿いには多くの微高地や後背湿地が形成されている。

現在、本遺跡の周辺は近年の圃場整備事業にもとづき、整然と区画された水田風景が広がっているものの、本遺跡周辺の旧地形は微高地と後背湿地からなりたっていることが、近年の発掘調査等で明らかにされている。

第2節 歴史的環境

前橋台地は先述した、地形的・地質的特色から元来、旧石器時代から縄文時代にかけて人々が生活を営むのに適していなかったといわれているが、平成6年に櫛島川端遺跡において縄文時代早期に比定される撫糸文土器片が、また徳丸仲田遺跡で同じく草創期にあたる微隆起線文土器の破片および尖頭器が出土し、これまでの前橋台地上における歴史概念を一変させるものと注目を浴びている。

時代が降り古墳時代に入ると、市内でも有数の古墳が出現する。前橋台地の北、現広瀬川の右岸、通称広瀬川低地帯と呼ばれる低地の縁には八幡山古墳、前橋天神山古墳、亀塚山古墳、経塚古墳に代表される「朝倉・広瀬古墳群」が存在する。古墳時代の集落跡としては古墳時代前期（石田川期）の、後閑団地遺跡、古墳時代後期（鬼高期）の、後閑II遺跡、川曲遺跡があげられる。古墳時代の水田跡としては古墳時代前期の大がかりな灌漑用水路の存在が明らかになった徳丸仲田遺跡、6世紀初頭とされる榛名二ツ岳降下火山灰（Hr-FA）に埋没した水田跡が検出されている公田東遺跡、萩原団地遺跡などがあげられる。

次に平安時代末期天仁元年（1108年）に噴出したとされる浅間B軽石に埋没した水田跡としては、本遺跡の東隣にあたる西田遺跡、条里制にともなう坪境畦畔が確認された宮地中田遺跡、条里制地割と想定される水田跡が検出された櫛島川端遺跡、公田池尻遺跡、五反田II遺跡などがあげられる。

なお、中世以降では中世末期の築城様式をもつ宿阿内城内遺跡がある。

【周辺遺跡名】

- ① 西田III遺跡 ② 西田遺跡 ③ 宮地中田遺跡 ④ 徳丸仲田遺跡 ⑤ 公田池尻遺跡 ⑥ 宿阿内城内遺跡 ⑦ 川曲遺跡 ⑧ 後閑II遺跡 ⑨ 公田東遺跡 ⑩ 萩原団地遺跡 ⑪ 櫛島川端遺跡 ⑫ 西善尺司遺跡 ⑬ 砂町遺跡 ⑭ 元島名瓦井遺跡

第3章 調査の方法と経過

第1節 調査の方法

(1) 発掘調査の方法

今回の調査区は南北に長く、また、残土を調査区外に処理することが極めて困難であった。そのため作業の進め方としては調査区を南北に分割し、残土を切り返す方法をとって南側より作業を行った。

実際の作業では最初に4.5パックホーを使用し、指標となるテフラを確認しながら表土除去を行った後、確認面まで人力にて掘り下げを行い、遺構検出につとめた。測量については、(株)前橋文化財研究所に公共座標に基づく測量用杭およびベンチマークの打設を委託した。その後、杭をもとに10m×10mのグリッドを設定した。グリッド名は北西角を起点に、北から南へ大文字アルファベット、西から東へアラビア数字を付し「A-1 グリッド」のように表記した。出土遺物の取り上げの際もこれを基準にして行った。遺構は、埋没状況・構築状態の観察記録を行った。

実測図の原図作成は平板測量を用いて行い、原則として遺構平面図を1/40、土層断面図および遺構エレベーション図を1/20のスケールにて作成した。特にテフラの堆積に関しては検出された遺構および遺物の時期推定の有力な指標となるために留意して記録を行った。遺構および遺物の写真撮影については、調査の過程において適宜行った。フィルムは35mmモノクロームフィルムおよびカラーリバーサルフィルムを併用した。また、J・T空撮に委託してラジコンヘリによる空撮を二度にわたって行った。

(2) 整理調査の方法

本調査では、発掘調査により出土した遺物、調査の過程において記録した実測図および写真を整理し、概況を示すことにより遺跡全体像の明瞭化を図ることを目的とした。遺構については遺構原図の修正の他、遺跡の性格を明らかにするために、遺構の構築年代にもとづいた時代別の遺構位置図を作成した。出土した遺物は、すべて水洗い・注記を行った後、可能な限り接合・復元を行った。

実測図作成について原図は原則として石器、土器ともに原寸にて行った。遺物実測図は時代別に石器、土器にわけて掲載し、観察表を付した。遺物写真は基本的に6×7版モノクロームフィルムを使用したが、陶磁器類については、6×7版カラーフィルムを使用して撮影を行った。

第2節 調査の経過（日誌抄）

平成10年

12月期

中旬

15日より調査を開始する。調査区南側を重機にて表土除去作業を行った後、17日より浅間B軽石層下水田跡検出作業を始める。(株)前橋文化財研究所に委託して公共座標をもとにした測量用杭打設を行う。

下旬

21日、サブトレンチをいれて河川跡の確認を行う。22日、調査区南側の基本堆積土層断面図を作成する。26日、1～4号河川跡掘り上げ作業を行う。同日作業終了後、調査区内に安全対策を施し今年の調査を終了とする。

平成11年

1月期

上旬

7日より調査を再開する。昨年末に引き続き南側浅間B軽石層下水田跡検出作業及び1～4号河川跡掘り下げ作業を行う。9日、浅間B軽石混土層下水田跡検出終了、1～4号河川跡を完掘する。浅間B軽石混土層下水田跡および1～4号河川跡完掘写真撮影を行う。

中旬

11日、南側第1面遺跡全体図の作成を終了する。12日より重機にて南側第2面上面まで掘り下げ作業を行う。14日より南側第2面の調査を開始し、遺構確認作業を行う。17日、1号井戸跡を確認し、掘り下げを行う。19日、1号井戸跡を完掘する。写真撮影および実測図作成を行う。20日、1号・2号掘立柱建物跡を検出する。写真撮影、実測図作成を行う。

下旬

21日、1・2号溝跡検出、実測図作成を行う。22日、1号溝跡掘り下げ作業を行う。1号・2号掘立柱建物跡の完掘写真撮影を行う。23日、1号溝跡を完掘する。写真および実測図作成を行う。26日、2号溝跡を確認し掘り下げ作業を行う。28日、2号溝跡を完掘する。調査区を清掃した後、検出した遺構に白線を引いて完掘写真撮影を行う。29日、南側第2面全体図の作成および完掘全景写真撮影を行う。30日、J・T空撮に委託してラジコンヘリによる南側第2面の空撮を行なう。南側第2面全体図作成を終了する。

2月期

上旬

1日より重機にて残土を切り返した後、調査区北側第1面表土除去作業を行う。5日より北側第1面の調査を開始する。浅間B軽石層下水田跡検出作業を行う。3号溝跡を確認する。6日、浅間B軽石層下水田跡・畦畔4条を検出する。3号溝跡掘り下げ作業、ピット確認し掘り下げ作業、実測図作成を行う。8日、浅間B軽石層に埋没した不整形な落ち込みを確認し、掘り下げを行う。9日、ピット群を検出し、掘り下げを行う。

中旬

11日、実測図作成を行う。12日、1～3号土坑を確認し、掘り下げ作業を行う。13日、1～3号土坑を完掘する。ピット群を検出する。写真撮影および実測図作成を行なう。15日、浅間B軽石混土層下水田跡を検出する。16日、調査区清掃後、検出された遺構に白線を引き2回目のラジコンヘリによる空撮を行なう。北側第1面の全体図作成を終了する。17日、北側第1面の完掘全景写真、その他の遺構完掘写真撮影を行う。18日より重機による北側第2面上面まで表土除去作業を行なう。19日、鶴光路町公民館前にトレーンチをいれて第1面まで掘り下げを行なう。また、北側第2面上面まで掘り下げの最中に縄文時代草創期の有舌尖頭器が出土する。

下旬

20日、公民館前トレーンチ第1面の写真撮影および実測図作成を行った後、第2面まで掘り下げを行い完掘写真撮影および実測図作成を行う。22日、前橋市教育委員会の終了確認の後、公民館前トレーンチの埋め戻し作業を行う。23日、北側第2面の調査を開始し、遺構確認作業を行う。6～8号溝跡を確認後掘り下げ作業を行う。24日、4号・5号土坑を確認し掘り下げを行う。25日、6～8号溝跡および4号・5号土坑を完掘する。実測図作成を行う。26日、調査区清掃後、検出遺構に白線を引き遺構完掘写真、北側第2面の完掘全

景写真を撮影する。並行して発掘器材のかたづけ、プレハブの清掃等撤収準備作業を行う。午後、北側第2面全体図作成も終了し、現地における西田Ⅲ遺跡の発掘調査をすべて終了する。

3月期

上旬

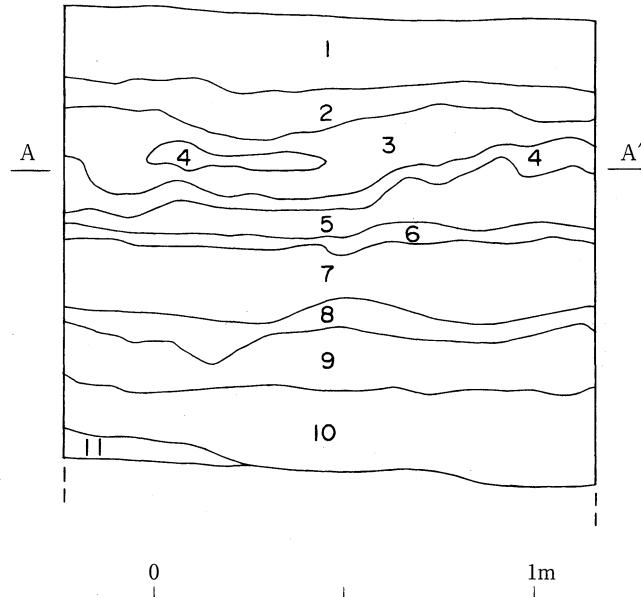
本遺跡の整理作業を開始する。出土遺物の洗浄・注記・接合作業終了後、実測対象遺物を選定し、遺物写真撮影を行う。撮影後、遺物実測を行う。また、並行して発掘現場で作成した実測図の修正作業を行う。

中旬

遺物実測図作成後、修正を加え遺構平面図とあわせて図面トレース作業を行う。トレース終了後、遺構および遺物写真とともに報告書用の図版の版組作業を行う。あわせて報告書原稿の作成を行う。

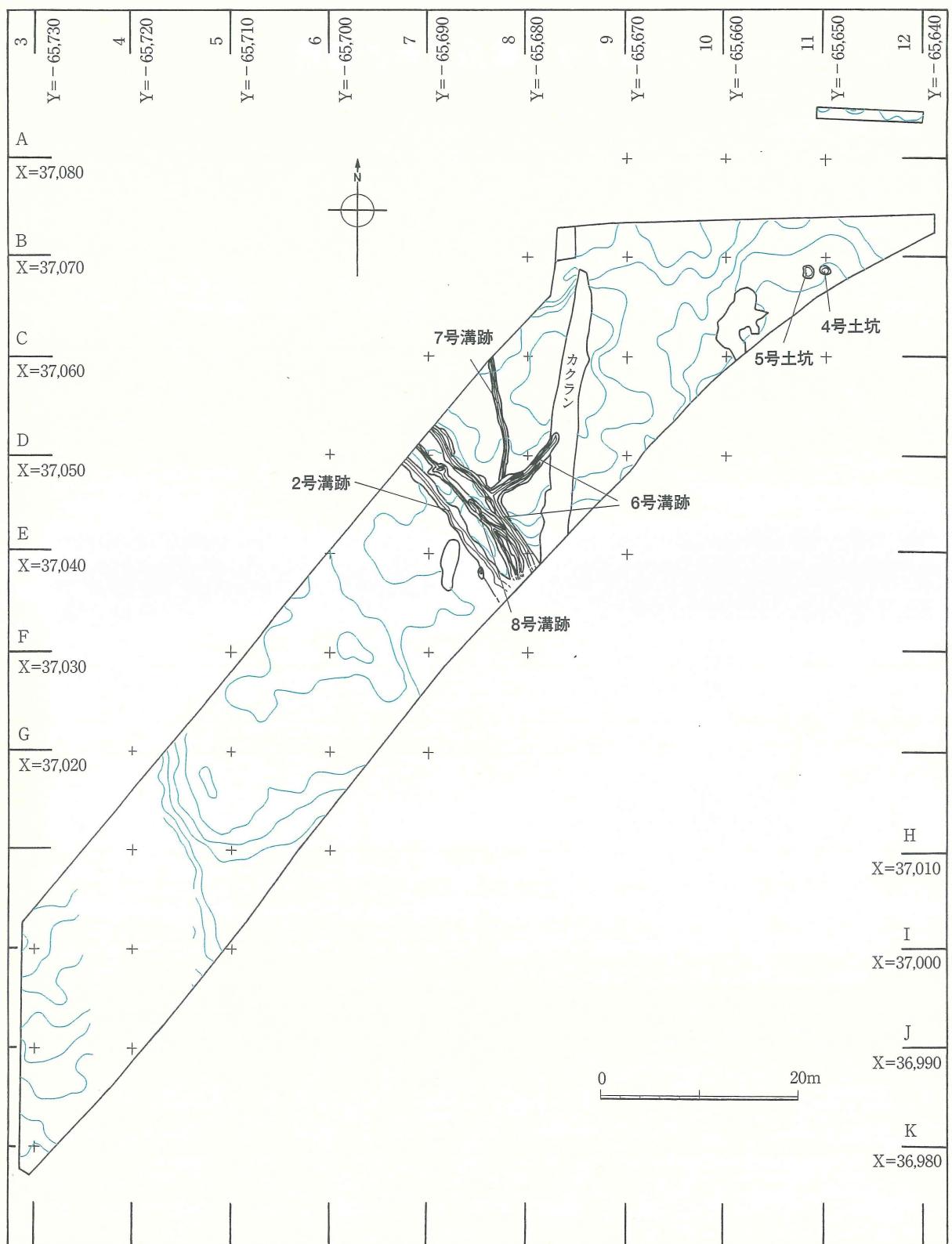
第3節 標準堆積土層

第5層で天仁元年（1108年）に降下したとされる浅間B軽石層を確認した。確認面よりの深さは約40～50cm、層厚約15cmを測る。遺存状態は調査区北側が良好で南側は広範囲にわたって削平を受けていた。したがって、第6層において確認した浅間B軽石層下水田跡も北側ほど遺存状態は良好で南側はB軽石混土層という状態であった。なお、第4層で浅間山噴火にともなう「ピンク灰層」が確認されている。



第4図 標準堆積土層図 (S=1/20)

1. 灰色土 : 7.5Y4/1 しまりあり。粘性なし。表土。
2. 灰色土 : 7.5Y4/1 しまりあり。粘性少しあり。鉄分付着の影響で黒褐色に変色している。
3. 青黒色砂 : 5BG2/1 しまりあり。粘性少しあり。砂の粒子細かい。
鉄分付着の影響で明褐色に変色している。
4. 暗赤灰色砂 : 5R4/1 固くしまる。粘性なし。浅間山噴火の際降下した「ピンク灰層」か。
5. 黒褐色砂 : 10YR3/1 しまりあり。粘性なし。砂の粒子粗い。
天仁元年（1108年）降下した浅間B軽石層。
6. 黒色粘質土 : 2.5Y2/1 密にしまる。粘性強い。鉄分沈着あり。浅間B軽石層下水田跡。
7. 黑褐色粘質土 : 2.5Y3/1 よくしまる。粘性かなりあり。
8. 黑色粘質土 : 2.5Y2/1 密にしまる。粘性強い。
9. にぶい黄色粘質土 : 2.5Y6/3 密にしまる。粘性あり。洪水によるものか。
10. 黑褐色粘質土 : 2.5Y3/1 密にしまる。粘性強い。鉄分沈着の影響で明褐色に変色している。
11. 灰白色粘質土 : 10Y8/1 密にしまる。粘性非常に強い。シルト化している。



第5図 古墳時代遺構位置図

第4章 検出された遺構

第1節 概要

今回の発掘調査は平成7・9年度に発掘調査が行われた西田遺跡および平成9年度に発掘調査が行われた西田Ⅱ遺跡の成果から、文化層が二面存在するものと想定された。実際に検出された遺構は当初の予想と若干異なるものもみられた。検出された遺構は時期により古墳時代、平安時代、平安時代末～中近世と大別できる。

古墳時代の遺構では溝4条、土坑2基を検出した。遺構に直接伴う遺物が検出されず、また資料も少なく詳細は不明だが、時期としては付近より出土した遺物や層位的な点より4世紀初頭から5世紀にかけてと考えられる。

平安時代の遺構としては、主に調査区北側において浅間B軽石に埋没した水田跡を検出した。同時代の遺構として同じく浅間B軽石に埋没した溝1条、土坑1基を検出している。

平安時代末より中・近世の遺構としてはまず、掘立柱建物跡2棟、柵列跡1基があげられる。掘立柱建物跡と柵列跡とは検出された場所がかなり離れてはいるものの、層位的な点や柵列の方向と掘立柱建物跡の長軸の方向が一致していることより、何らかの関連性があると考えられる。この他、溝1条、土坑2基を検出している。さらに、調査区南側において河川跡4条を検出した。同河川跡からは中世から近世にわたる陶器、磁器片等が出土している。

第2節 古墳時代

(1) 溝跡

2号溝跡

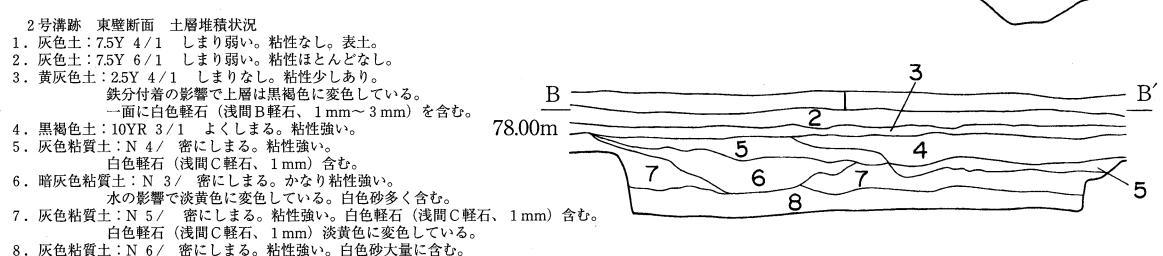
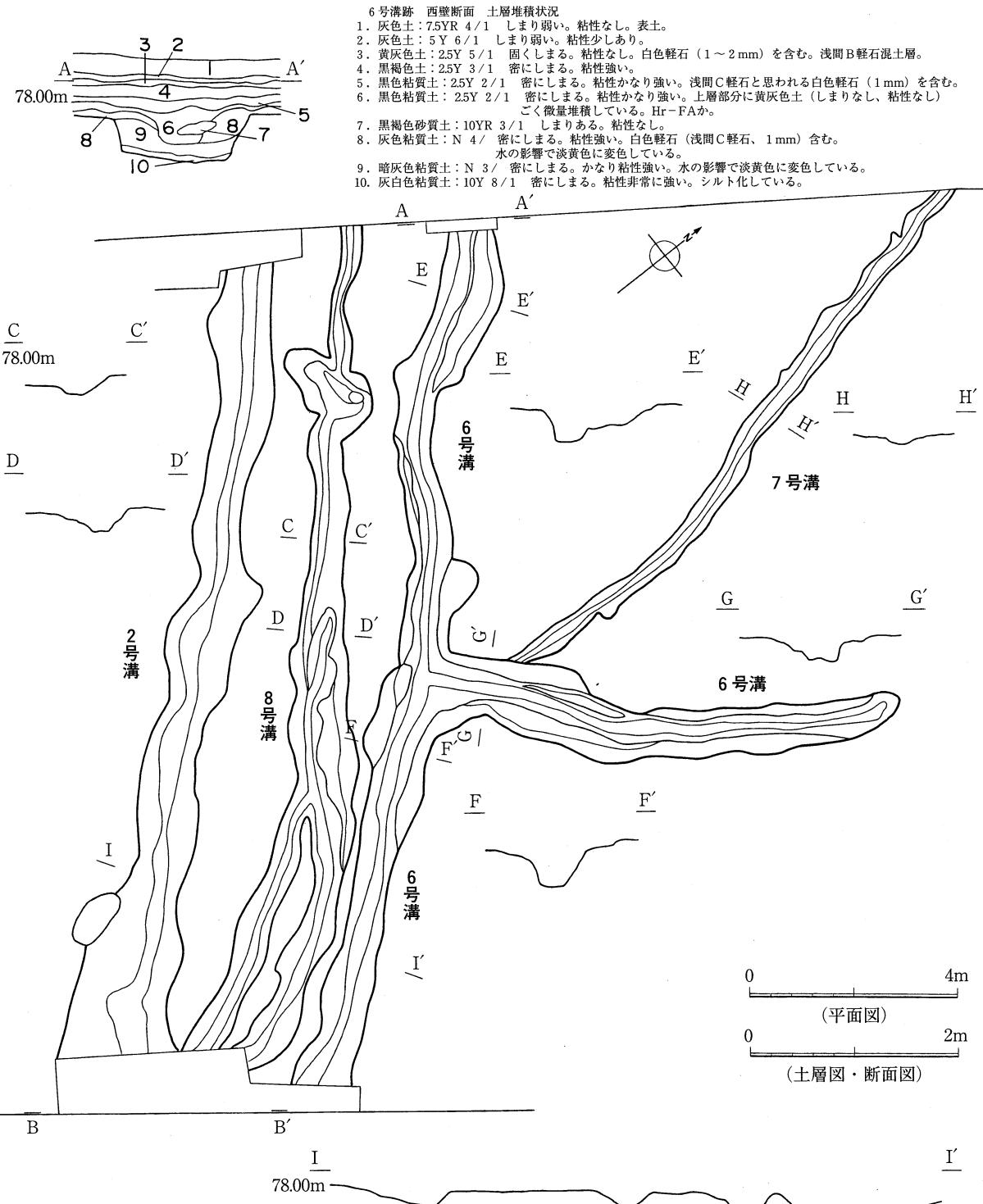
位置：調査区ほぼ中央部、7E～7Fグリッド。**走向**：北西(77.73m=底面の標高、以下同じ)から南東(77.68m)方向。**規模**：幅2.3m、下幅0.6m、確認面よりの深さは22cmを測る。**形状**：底部はほぼ平坦であり、幅もほぼ一定である。断面形状は皿状を呈し両側とも底部より緩やかにたちあがる。**埋没土**：黒色粘質土。浅間C軽石と考えられる白色軽石を多く含む。**出土遺物**：検出されなかった。

所見：時期については、遺物が検出されず詳細は不明であるが、層位的な点より4世紀初頭より5世紀にかけての所産と考えられる。また、埋没土の状況からは流水の可能性を確認することはできなかった。

6号溝跡

位置：調査区中央部分、7C～8Dグリッドである。**走行**：北西(77.49m)から南東(77.38m)方向である。また北東(77.63m)から南西(77.50m)方向である。**規模**：上幅1.5m、下幅0.2m、確認面よりの深さ37cmを測る。**形状**：中央部分、7Dグリッドで北東方向からの溝が合流する。また、中位の所々で「テラス」部分をもつ。断面形状は底部より中位までやや直線状にたちあがり、そこから外側に緩やかにひらくようにたちあがる、ロート状を呈する。最も深い地点は、先述の合流地点である。**埋没土**：黒色粘質土。浅間C軽石と考えられる白色軽石を多く含む。さらに埋没土上層に薄いながらもHr-FAと考えられる黄褐色土が堆積しているのを確認している。**出土遺物**：検出されなかった。

所見：時期については、遺物が検出されず詳細は不明であるが、層位的な点より、4世紀初頭以降より5



第6図 2・6・7・8号溝跡

世紀にかけての所産と考えられる。また、埋没土の状況からは流水の可能性は確認できなかった。

7号溝跡

位置：調査区中央部分、7C～7D グリッドである。**走向**：北西(77.72m)から南東(77.62m)方向である。

規模：上幅0.5m、下幅0.2m、確認面よりの深さ9cmを測る。**形状**：断面形状はU字状を呈し、底部より緩やかにたちあがる。幅、深さともほぼ一定である。**埋没土**：黒色粘質土。浅間C軽石と考えられる白色軽石を多く含む。**出土遺物**：検出されなかった。

所見：時期については、遺物が検出されず詳細は不明であるが、層位的な点より4世紀初頭より5世紀にかけての所産と考えられる。また、埋没土の状況からは、流水の可能性は確認できなかった。

8号溝跡

位置：調査区中央部分、6D～7E グリッドである。2号溝跡と6号溝跡の間である。**走向**：南東(77.70m)から北西(77.48m)方向である。**規模**：上幅1.2m、下幅0.2m、確認面よりの深さ20cmを測る。**形状**：平面形状は、東側で2つに分岐する「Y字」状を呈する。断面形状は6号溝と同様、底部より中位までやや直線状にたちあがり、さらに外に緩やかにひらくようにたちあがる、ロート状を呈する。**埋没土**：黒色粘質土。浅間C軽石と考えられる白色軽石を多く含む。**出土遺物**：検出されなかった。

所見：時期については、遺物が検出されず詳細は不明であるが、層位的な点より4世紀初頭より5世紀にかけての所産と考えられる。また、埋没土の状況からは流水の可能性は確認できなかった。

(2) 土坑

4号土坑

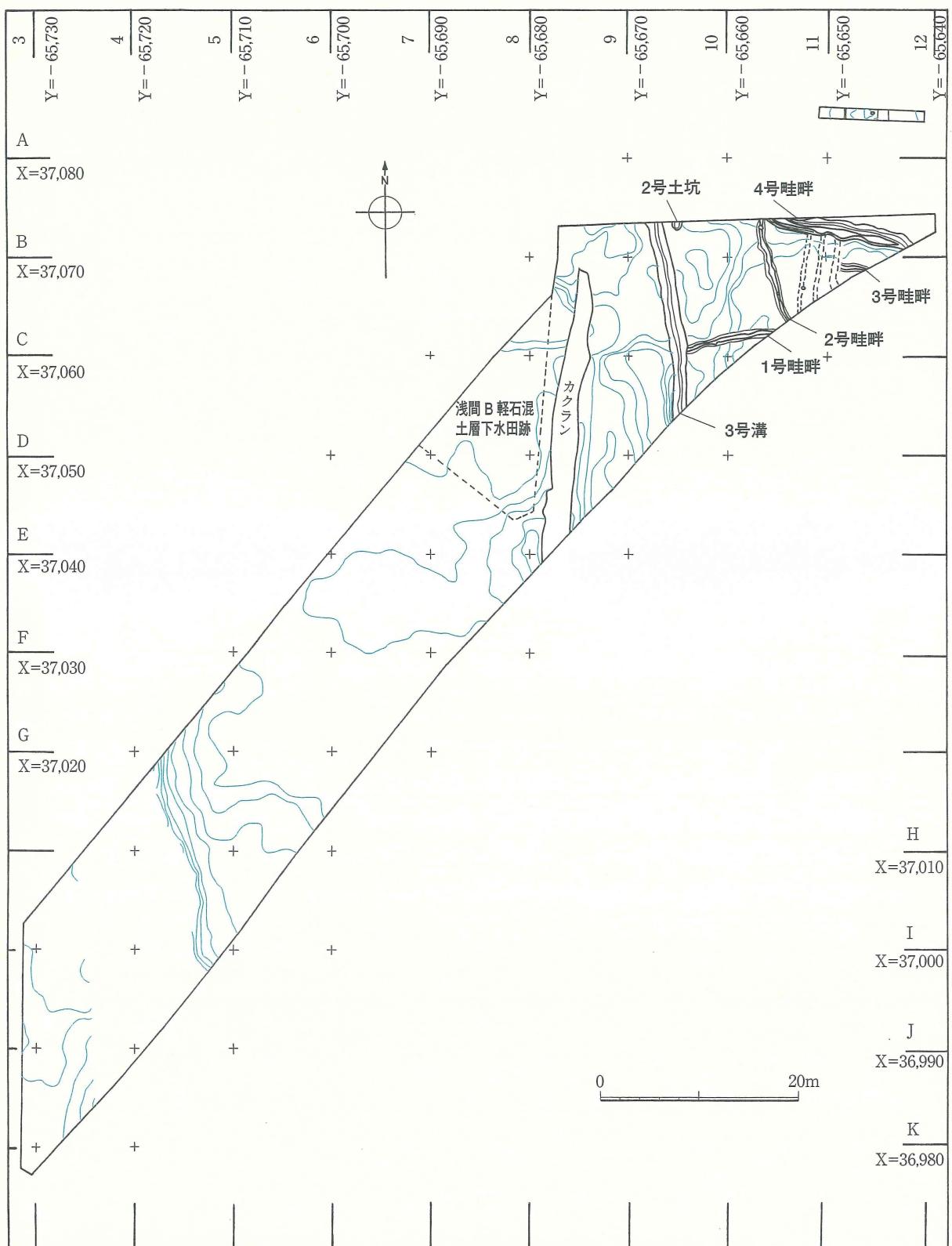
位置：調査区北部、11B グリッドである。**規模**：長径0.9m、短径0.7m、確認面よりの深さは11cmを測る。**形状**：平面形状は不整円形を呈し、断面形状は浅い皿状を呈する。**埋没土**：黒色粘質土。浅間C軽石と考えられる白色軽石を多く含む。**出土遺物**：遺構に伴うものは検出されなかつたが、付近より古墳時代前期のS字状口縁台付甕の破片が検出されている。

所見：時期については、遺物が検出されず詳細は不明であるが、付近より検出された遺物や層位的な点より、4世紀初頭より5世紀にかけての所産と考えられる。

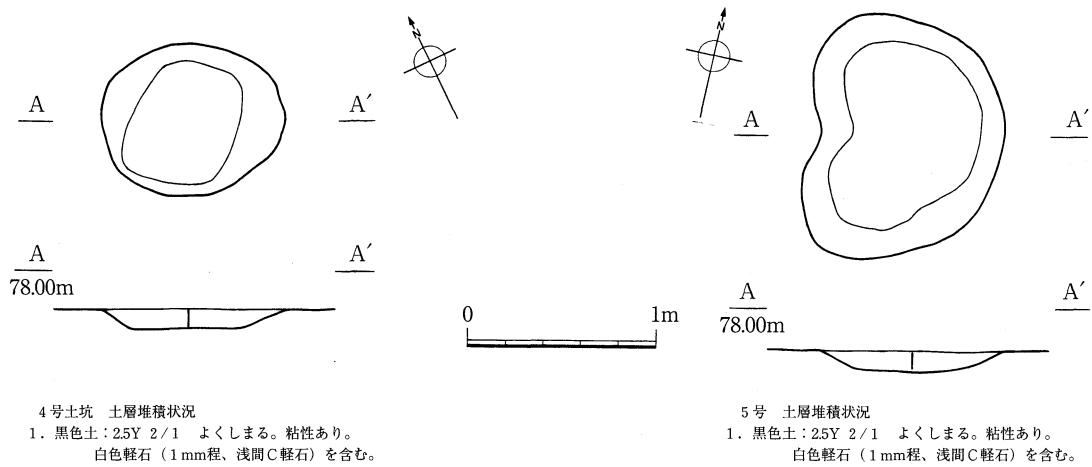
5号土坑

位置：調査区北部、10B グリッド、4号土坑の西隣である。**規模**：長径1.3m、短径0.9m、確認面よりの深さは12cmを測る。**形状**：平面形状は不整円形を呈する。断面形状は浅い皿状を呈する。**埋没土**：黒色粘質土。浅間C軽石と考えられる白色軽石を多く含む。**出土遺物**：遺構に伴う遺物は検出されなかつたが、付近で古墳時代前期のS字状口縁台付甕の破片が検出されている。

所見：時期については、遺物が検出されず詳細は不明であるが、付近より検出された遺物や、層位的な点より、4世紀初頭より5世紀にかけての所産と考えられる。



第7図 平安時代遺構位置図



第8図 4・5号土坑

第3節 平安時代

(1) 水田跡

浅間B 軽石層下水田跡

土層および残存状況：調査区の最北部で浅間B軽石の堆積が確認された。層厚は約15cm程である。その下面より、浅間B軽石に埋没したとされる水田跡を検出した。土壤的には水田跡下層には粘性が強い黒褐色粘質土が堆積しており、保水性という点では良好であるといえる。**水田域の地形：**標高は北東部で78.1m、南東部で77.8mを測り、北から南へと緩やかに下っている。**畦畔、水田区画および面積：**検出した畦畔は4条である。このうち遺存状況が良好な畦畔は、1号畦畔および2号畦畔である。1号畦畔は東西方向に構築され3号溝跡につながる。幅80cm前後、高さ6cmを測る。断面形状は台形状を呈する。2号畦畔は南北方向に構築され、幅80cm前後、高さ6cmを測る。断面形状は台形状を呈する。3号畦畔は幅80cm前後、東西方向に構築され、西は2号畦畔にぶつかる。4号畦畔は幅90cm前後、東西方向に構築され、2号畦畔とほぼ平行に位置する。最も遺存状況が良好な水田の区域は2号畦畔と3号溝跡に挟まれた部分および3号溝跡から中・近世の5号溝跡付近までである。面積は各区画とも調査区外にのびているため不明である。**取水について：**明瞭な水口は検出されなかった。ただ、後述する3号溝跡は本水田跡に関わっていた可能性がある。**足跡その他：**人の足跡や耕作用の動物の足跡は明確には捉えられなかった。ただ、鋤先痕と考えられる約10cmから15cm未満の半月状の窪みが多数確認されたが、これは後世のものである可能性がある。また、浅間B軽石層を除去した下より凹凸が多数集中している部分が検出されたが、これは動物の足跡の可能性がある。なお、3号畦畔の西側にごく浅い溝状の落ち込みがあり、当初遺構を想定したが、調査の結果遺構でないことが判明した。

(2) 溝跡

3号溝跡

位置：調査区北側部分、9A～9Cグリッドである。両側に浅間B軽石層下水田跡が展開している。**走向**

：北西(77.62m)から南東(77.54m)方向である。若干北側にふくらむが、ほぼ直線状である。**規模**：上幅1.8m、下幅0.3m、確認面よりの深さ34cmを測る。**形状**：底部は凹凸もなくほぼ平坦で幅も一定である。断面形状は皿状を呈し、たちあがりは東側が緩やかであるのに対し、西側はやや直立気味にたちあがる。**埋没土**：上層に暗赤灰色火山灰層および、浅間B軽石が多量に堆積しているため、浅間B軽石埋没溝といえる。また、本遺構は浅間軽石層下水田跡と同じ面に構築されている。**出土遺物**：検出されなかった。**重複関係**：後述する1号柵列跡との新旧関係は、溝の底面よりピットが検出されたことより、1号柵列跡が溝を切っていると考えられる。

所見：本遺構の性格は、水田耕作用用水路としての役割のほか、位置や走向方向から判断して水田区画などの可能性が考えられる。

(3) 土坑

2号土坑

位置：調査区北端、9Aグリッドである。**規模**：長径1.0m以上、短径0.8m、確認面よりの深さは28cmを測る。**形状**：平面形状は不整円形状を呈し、断面形状は皿状を呈する。**埋没土**：上層に浅間B軽石が大量に堆積しており、層位的な点より浅間B軽石埋没土坑といえる。また、本遺構は浅間B軽石層下水田跡と同じ面に構築されている。**出土遺物**：検出されなかった。

所見：水田面に構築されているが、関連性については明確には把握できなかった。

第4節 平安時代末～中・近世

(1) 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡

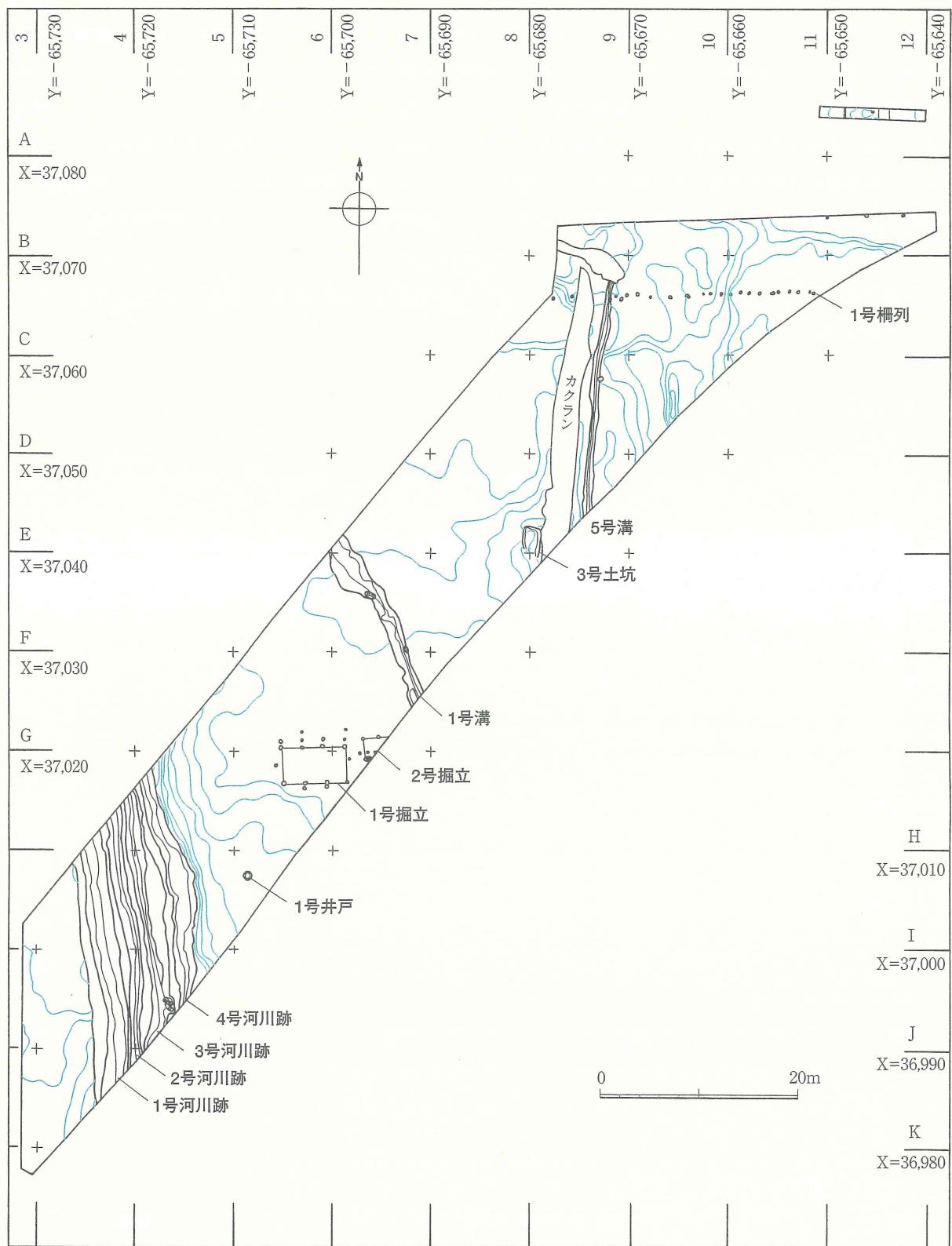
位置：調査区南部、6Gグリッドである。**規模**：梁行1間×桁行3間の掘立柱建物である。規模は梁行3.5m、桁行6.4mを測る。また、ピット間の距離は、P1～P2が1.6m、P2～P3が2.1m、P3～P4が2.2m、P4～P5が3.5m、P5～P6が2.2m、P6～P7が2.1m、P7～P8が3.5mである。ピットの長径は25cm～40cmである。確認面よりの深さは、25cm～60cmである。**長軸**：N-87°-Eである。**埋没土**：浅間B軽石混じり灰色土。**出土遺物**：遺構に直接伴うものは検出されなかったが、周辺に散在する状態で土師器、須恵器片等が検出された。

所見：柱穴の周囲に小ピットが検出されたが、これは廂の役割をはたしていた可能性が考えられる。時期については、周辺に散在する遺物や層位的な点より12世紀初頭以降中世にかけての所産と考えられる。近接する2号掘立柱建物跡と並ぶような状態にあり、2棟はほぼ同じ時期に存在していた可能性が高い。

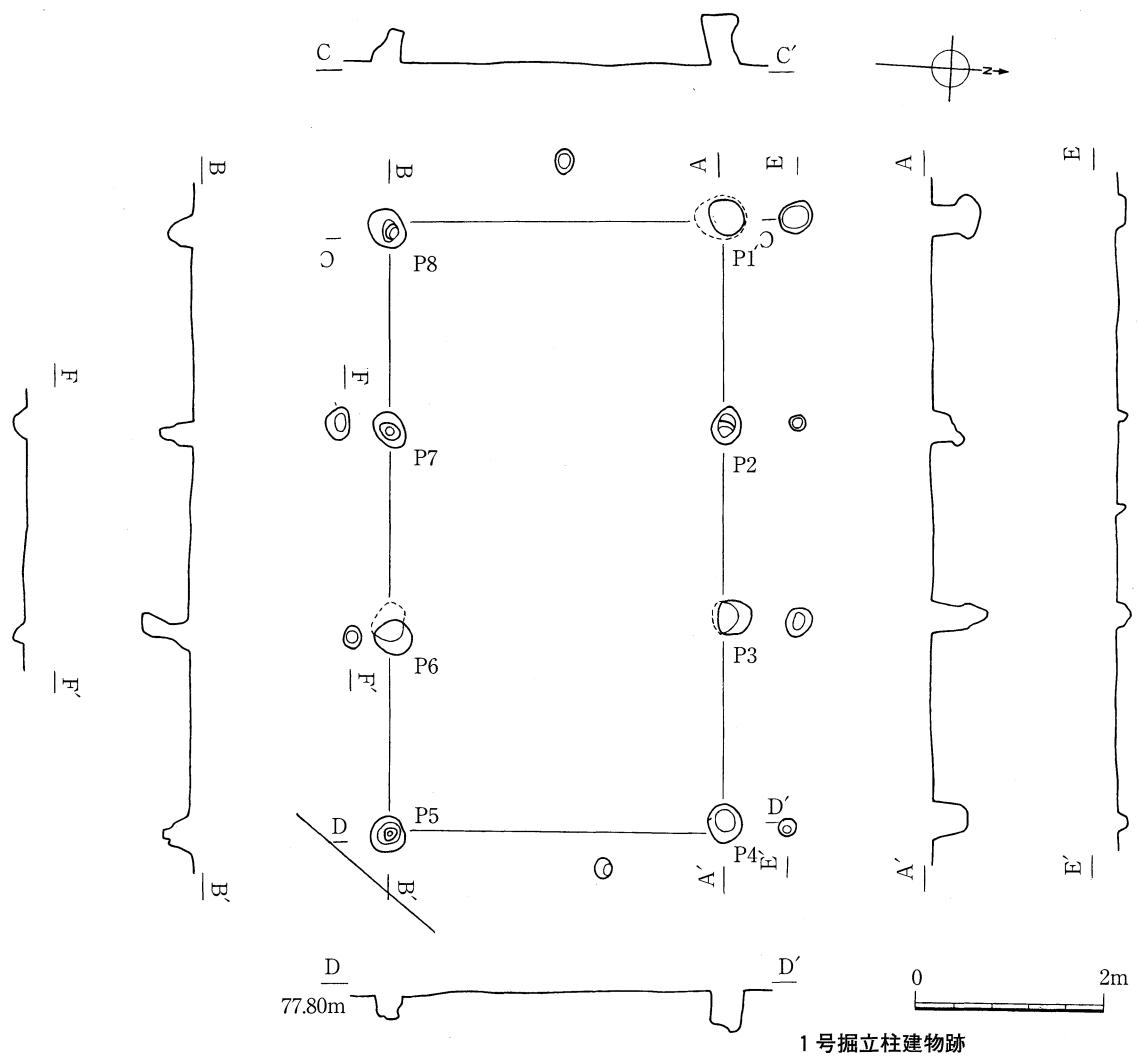
2号掘立柱建物跡

位置：6Gグリッド、1号掘立柱建物跡の東隣で検出された。東を調査区境に切られる。**規模**：ピット3基を検出したのみで、全容は不明である。ピット間の距離はP1～P2が2.0m、P2～P3が1.7mである。確認面よりの深さは約20cm～50cmである。**埋没土**：浅間B軽石混じり灰色土。**出土遺物**：検出されなかった。しかし、1号掘立柱建物跡と同様、周辺に土師器、須恵器片等が散在する状態で検出された。

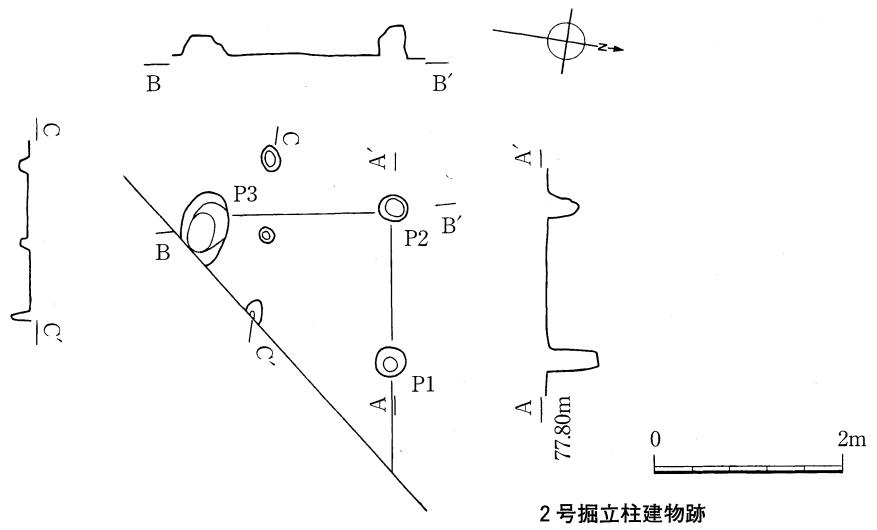
所見：柱穴の周囲には1号掘立柱建物跡と同様、小ピットが検出された。先述した通り、1号掘立柱建物跡と同時期に存在していた可能性はあるが、建物跡の全容がわからないこともあり具体的な関連性について



第9図 平安時代末～中・近世遺構位置図



1号掘立柱建物跡



2号掘立柱建物跡

第10図 1・2号掘立柱建物跡

は明瞭には捉えられなかった。

(2) 柵列跡

1号柵列跡

位置：調査区北側、8B～10B グリッドである。東西方向にほぼ一列にピットが並ぶ。**規模**：ピット東端よりピット西端まで約20mである。ピット間の距離は約1.1～2.0mである。**長軸**：N-87°-Eである。**埋没土**：浅間B 軽石混じり灰色土。**出土遺物**：検出されなかった。**重複関係**：本遺構のピットの一部が、先述した浅間B 軽石埋没溝である3号溝跡を切っている。

所見：時期については、遺物が検出されず詳細は不明だが、本遺構と先述した3号溝跡との重複関係や層位的な点より12世紀初頭以降中世にかけての所産と考えられる。先述した1号・2号掘立柱建物跡とはピット列の方向と掘立柱建物跡の長軸がほぼ一致していたり、層位的な点がほぼ同じであることから、この2種類の遺構はほぼ同時期に存在していた可能性が高い。しかし、遺物が検出されず、また、柵列跡の付近では他に掘立柱建物跡を明瞭に確認できなかったことから、現時点では関連および具体的な性格については捉えられなかった。

(3) 溝跡

1号溝跡

位置：調査区中央部分、6E～6F グリッドである。**走向**：北西(77.70m)方向から南東(77.62m)方向である。**規模**：上幅3.0m、下幅1.0m、確認面よりの深さ30cmを測る。**形状**：底部は凹凸はみられるものの、ほぼ平坦である。幅は北西部でやや広い。断面形状は浅い皿状を呈し、両側へ緩やかにたちあがる。**埋没土**：上層に浅間B 軽石混じり灰色土が堆積しているのが確認された。**出土遺物**：検出されなかった。

所見：時期については、遺物の出土がみられず詳細は不明であるが、層位的な点より12世紀初頭以降中世にかけての所産と考えられる。

5号溝跡

位置：調査区北側、8B～8D グリッドである。**走向**：北西(77.77m)方向から南東(77.66m)方向である。**規模**：上幅0.42m、下幅0.24m、確認面よりの深さ20cmを測る。**形状**：ほぼ直線状にのびる。断面形状は、U字状を呈している。**埋没土**：浅間B 軽石混じり灰色土。**出土遺物**：検出されなかった。

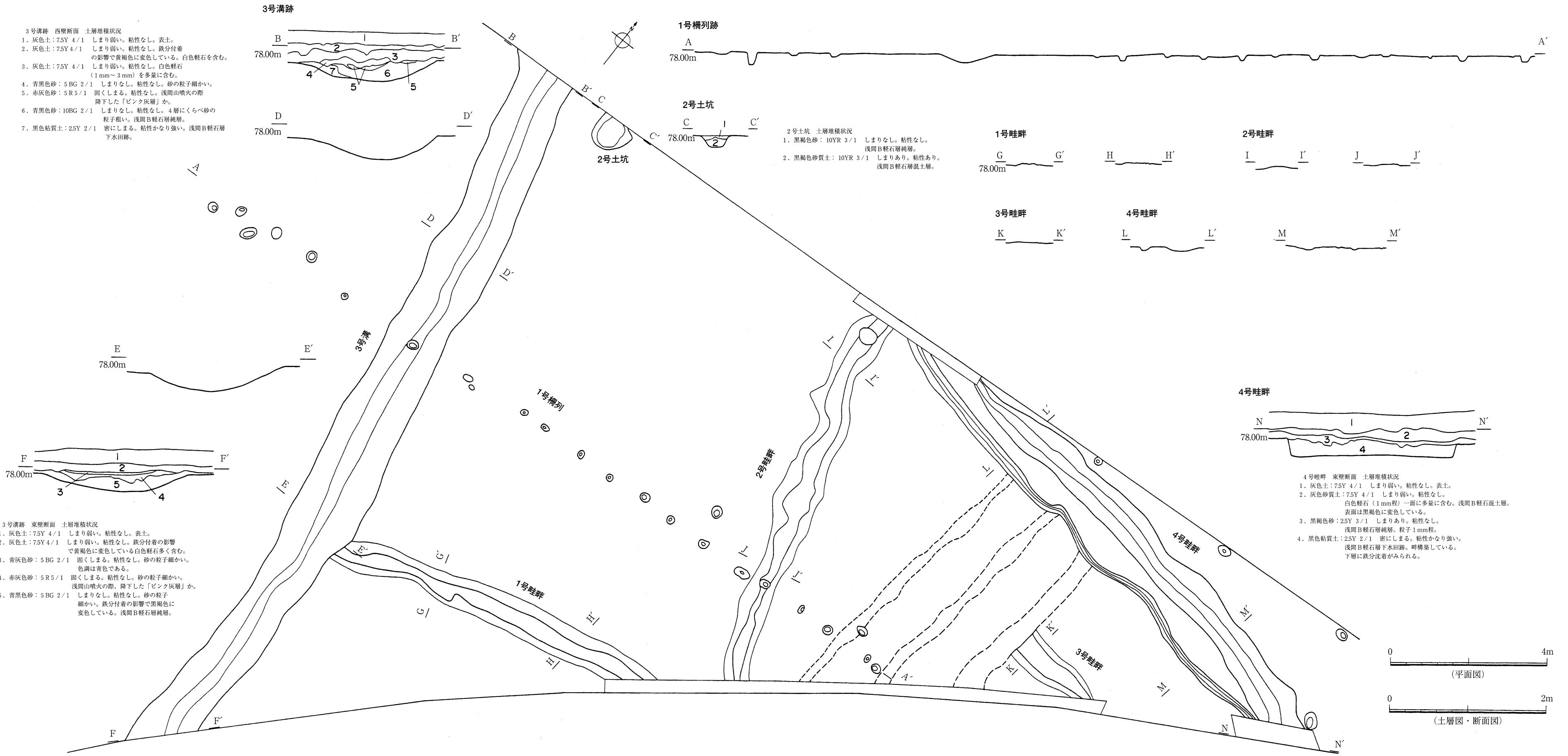
所見：時期については遺物が検出されず、詳細は不明であるが、層位的な点より12世紀初頭以降中世にかけての所産と考えられる。また、埋没土の状況からは流水の可能性は確認できなかった。

(4) 土坑

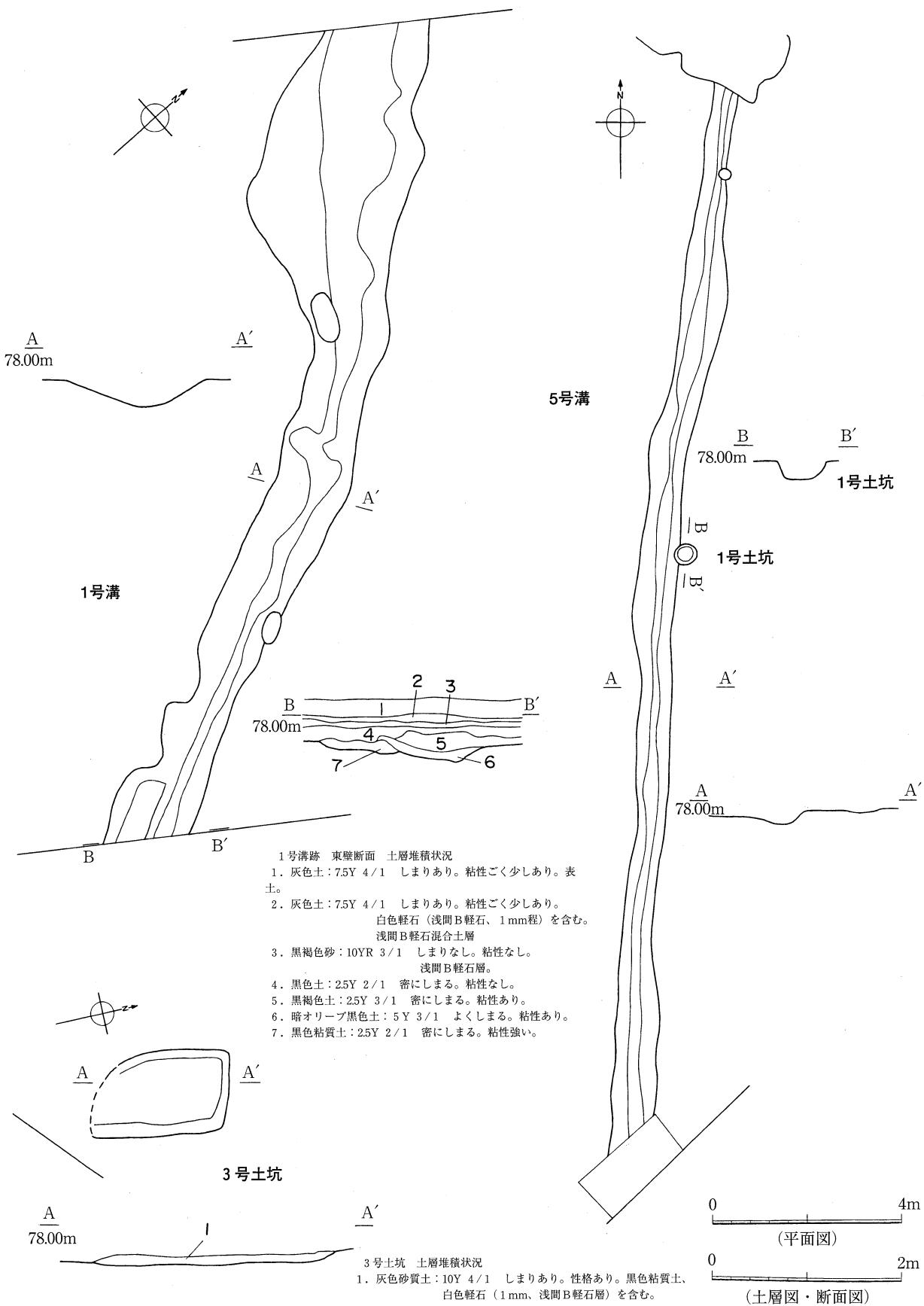
1号土坑

位置：5号溝跡中央部分、8C グリッドである。**規模**：長径0.5m、短径0.4m、確認面よりの深さは17cmを測る。**形状**：平面形状は不整円形を呈し、緩やかに両側へたちあがる。**埋没土**：浅間B 軽石混じり灰色土。

所見：時期については、遺物の出土がみられず詳細は不明であるが、層位的な点より、12世紀初頭以降中世にかけての所産と考えられる。また、5号溝跡との関連も不明である。



第11図 浅間B軽石層下水田跡・3号溝跡・1号柵列跡・2号土坑



第12図 1・5号溝跡、1・3号土坑

3号土坑

位置：調査区中央部分東端、7D、8Dグリッドである。**規模：**長径3.0m、短径2.0m、確認面よりの深さ22cmを測る。**形状：**平面形状は北西方向に長い隅丸方形を呈し、両側へ緩やかにたちあがる。**埋没土：**浅間B軽石混じり灰色砂質土。

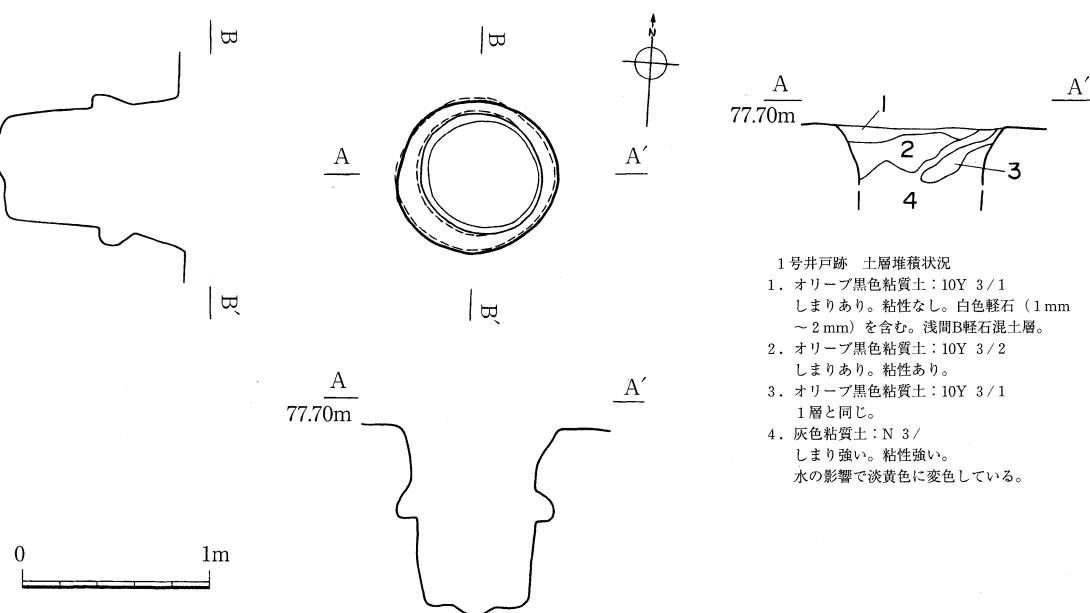
所見：層位的な点より12世紀初頭以降中世にかけての所産と考えられる。遺物は香炉と思われる陶器片が1点のみ出土しているが、これは後世の流れ込みによる可能性が高い。

(5) 井戸跡

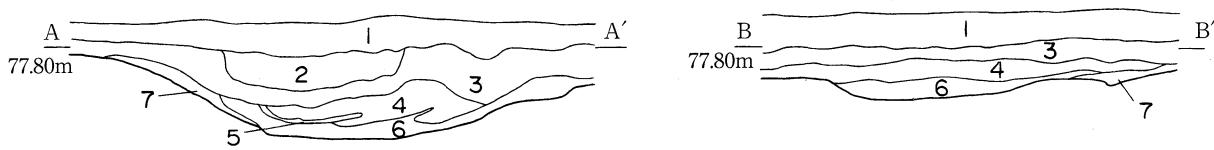
1号井戸跡

位置：調査区南側、5Hグリッドである。**規模：**長径0.85m、深さ100cmを測る。**形状：**確認面での平面形状はほぼ円形を呈している。確認面より40cm下がったところに中段があり、約56~58cm四方に広がって円形のテラス面を形成している。テラスから底部まではほぼ円筒形の掘り方であり、壁面もほぼ直線状である。**埋没土：**上層に浅間B軽石混じりの砂質層が堆積している。埋没状況は自然埋没と考えられる。掘り方も灰白色粘質土まで掘りこんでおり、しっかりしたつくりである。

所見：鑿井の時期については、遺物の出土がみられず、詳細は不明であるが、埋没土の上層に浅間B軽石混じり砂質層が存在しており、層位的な点より12世紀以降の所産であると考えられる。なお、付近には小ピットは確認できず、井戸を覆う施設の存在については不明である。



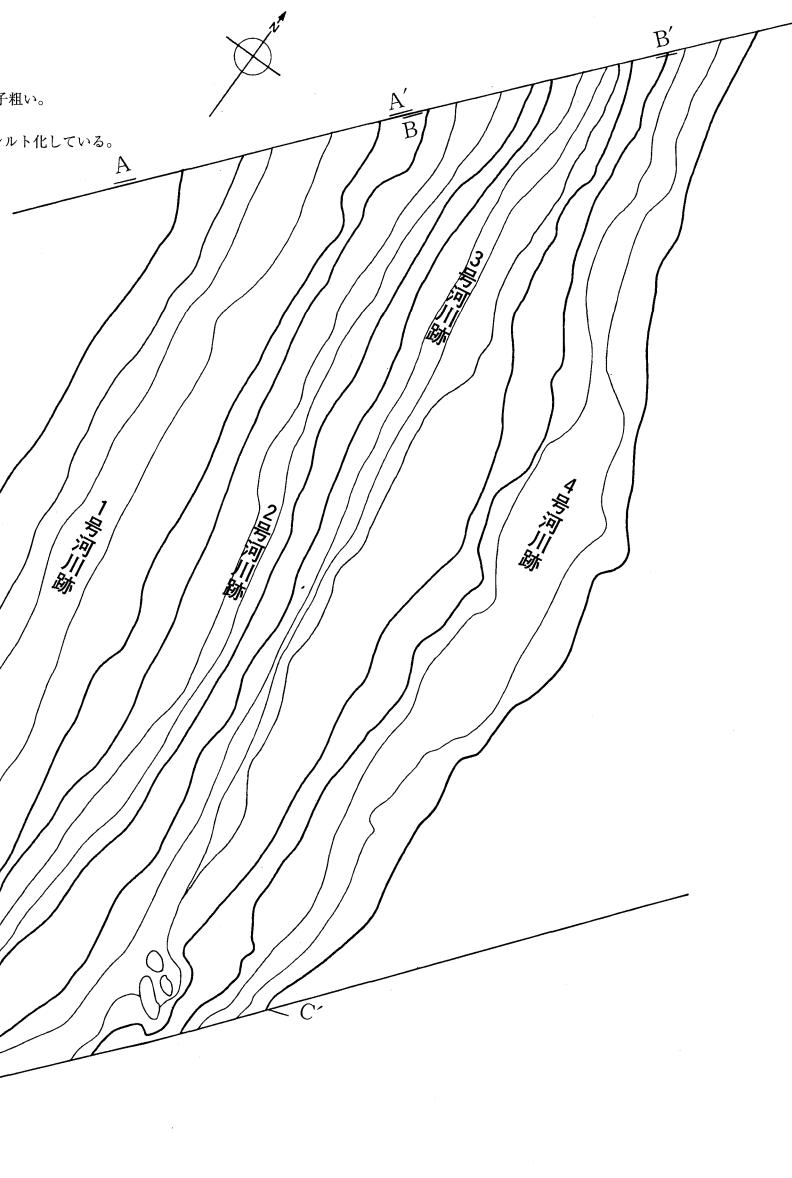
第13図 1号井戸跡



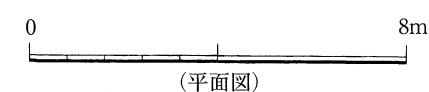
河川跡 土層堆積状況

1. 灰色土: 10Y 5/1 よくしまる。粘性なし。表土。
2. オリーブ黒色砂質土: 7.5Y 3/1 よくしまる。粘性なし。
灰色砂、ビニール片含む。新しい時期の擾乱によるものか。
3. 灰色土: 10Y 4/1 よくしまる。粘性なし。
4. 褐灰色粘質土: 10YR 5/1 密にしまる。粘性非常に強い。
5. にぶい黄褐色砂: 10Y 5/1 しまりなし。粘性なし。砂の粒子粗い。
6. 灰色土: 5Y 4/1 よくしまる。粘性なし。
7. 灰白色粘質土: 10YR 8/1 密にしまる。粘性かなり強い。シルト化している。

河川たちあがり部分。



C
77.40m



第14図 1・2・3・4号河川跡

(6) 河川跡

調査区南側（3H～4Iグリッド）で4条並ぶようにして検出された。中でも最も大きいのが1号河川跡である。上幅3.5m、下幅1.5m、確認面からの深さは50cmを測る。断面形状は皿状を呈し両側とも緩やかにたちあがる。完全に埋没した時期は比較的新しいと考えられ埋没土については上層に灰色土が堆積するほか、ビニール等も多数入り混じっており、近い時期の攪乱の影響を著しく被っている。性格としては人為的に掘削した用水路の可能性もある。出土した遺物は、破片ではあるが、奈良・平安時代の土師器・須恵器片をはじめとして陶磁器片が出土している。

第5章 出土した遺物

遺物は、遺構に伴うものがほとんどなかったため、遺構同様時代ごとに概説することとする。

第1節 縄文時代

1は第2面調査時に検出した有舌尖頭器である。石材は砂質頁岩である。調整部分は摩耗が著しく、先端部分が欠損している。石鏃は凹基無茎2点を検出した。石材は2が黒曜石、3が砂質頁岩である。調整部分は2・3ともに押圧剥離が認められ、2は先端部分が欠損している。3は剣菱形状を呈している。2点とも尖頭器と同じく第2面調査時に検出された。他に頁岩製のスクレイパー（4）が検出された。

第2節 古墳時代

古墳時代前期に相当するS字状口縁台付甕の破片3点（5・6・7）が検出された。

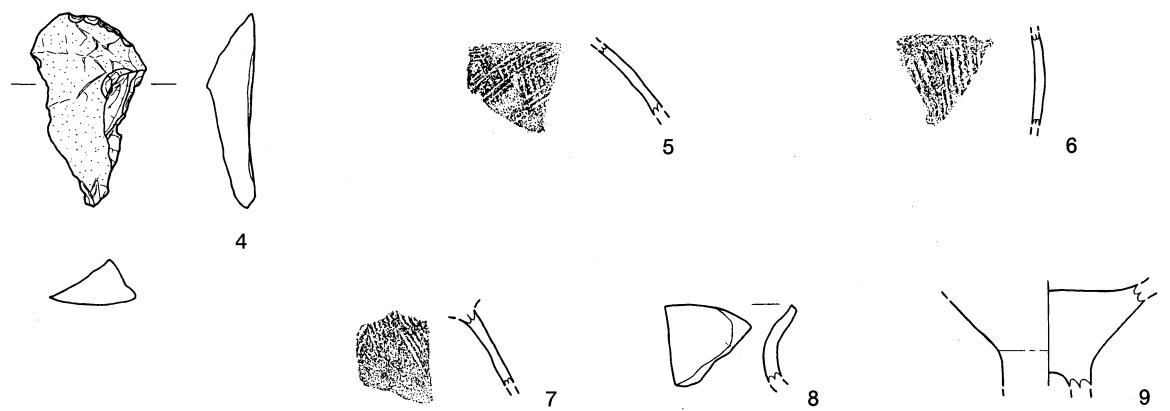
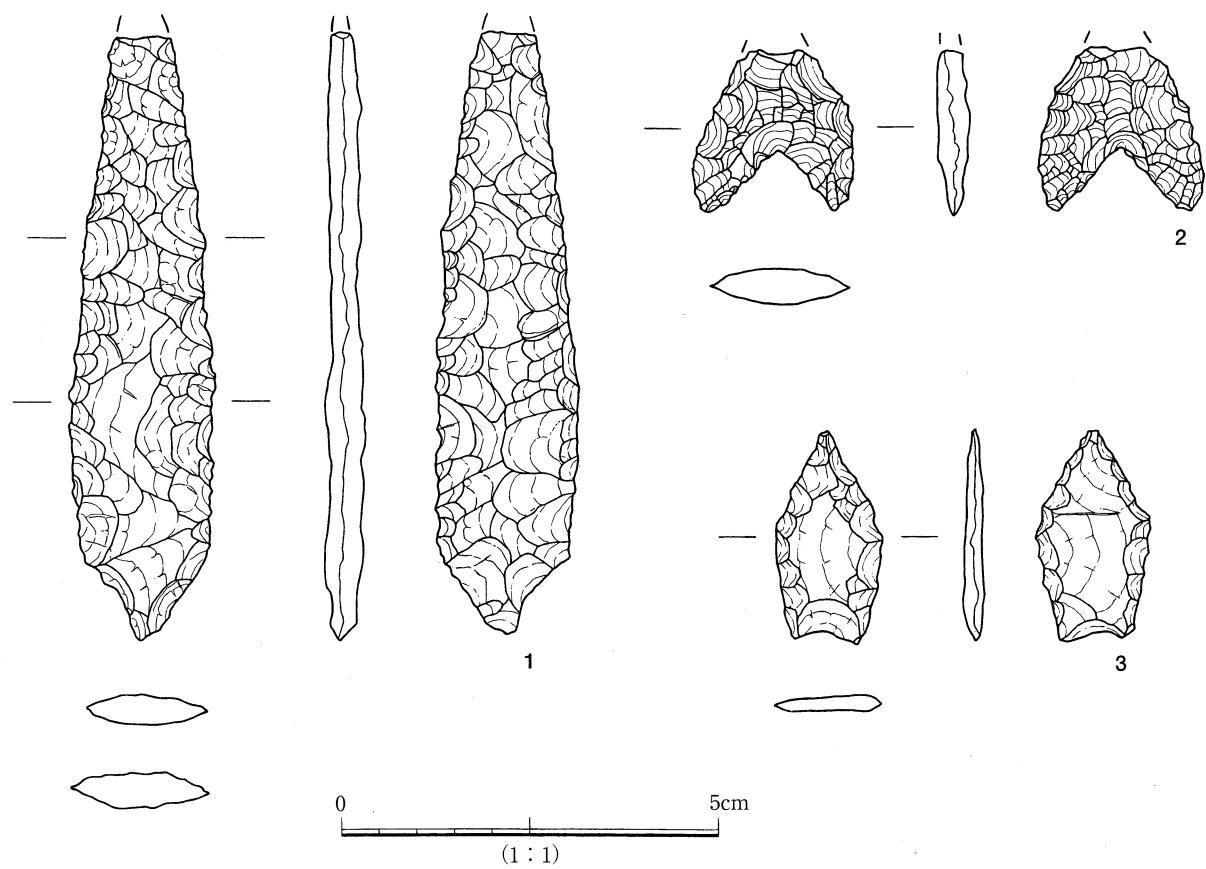
第3節 平安時代

土師器片5点、須恵器片7点、灰釉陶器片4点を掲載した。器種は壺・高壺・甕・碗等である。須恵器16・17は胎土が類似している点より同一地域で生産されたと考えられる。また灰釉陶器（20・21・22）については、角型や三日月型の高台を貼り付けている点や施釉技法などより、9世紀後半より10世紀前半に比定されている、尾張国猿投窯系の「黒釜14号窯式」や「黒釜90号窯式」段階に相当すると考えられる。他に土錘1点（24）を検出している。

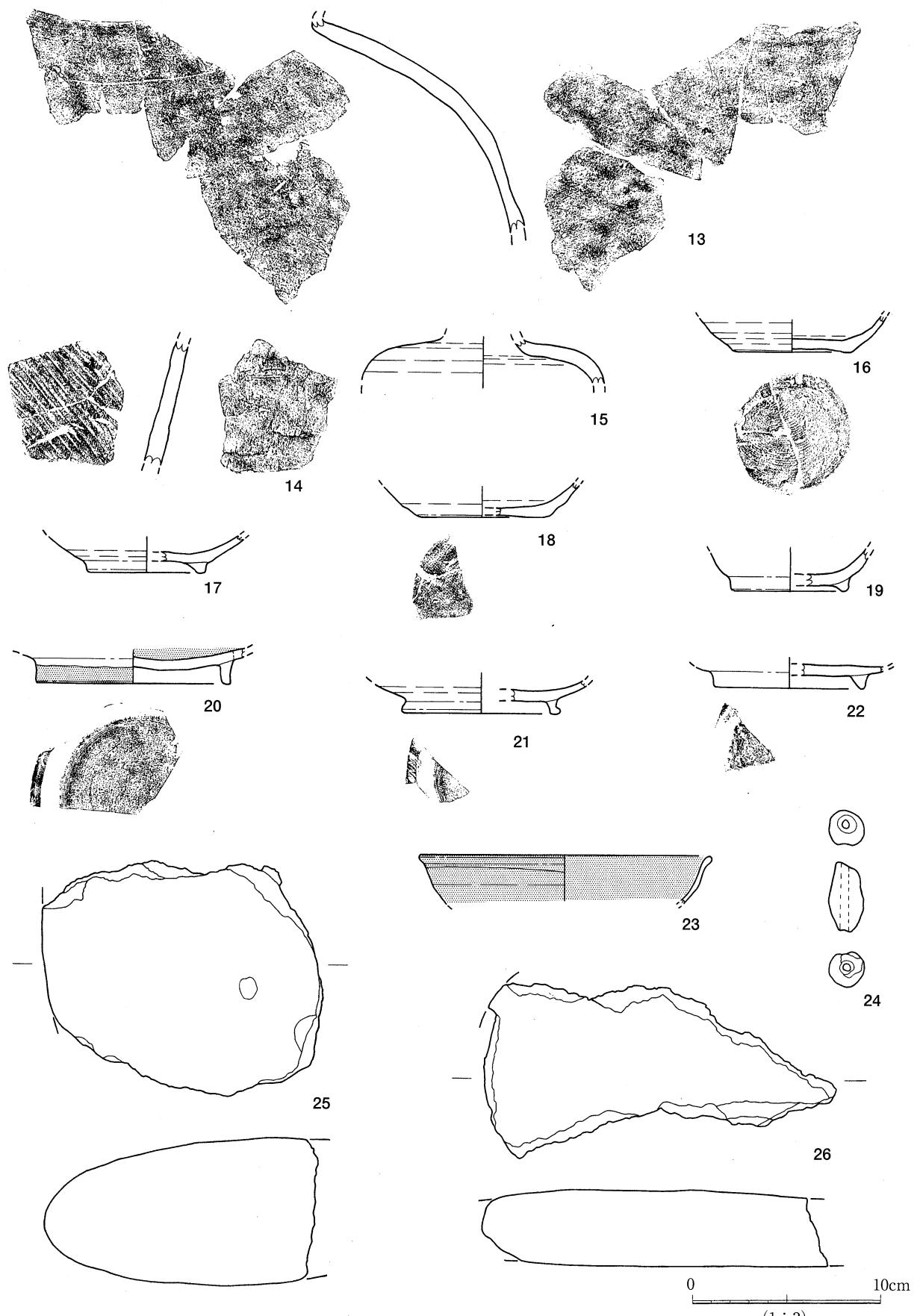
第4節 中世・近世

中近世の陶器類は24点掲載した。

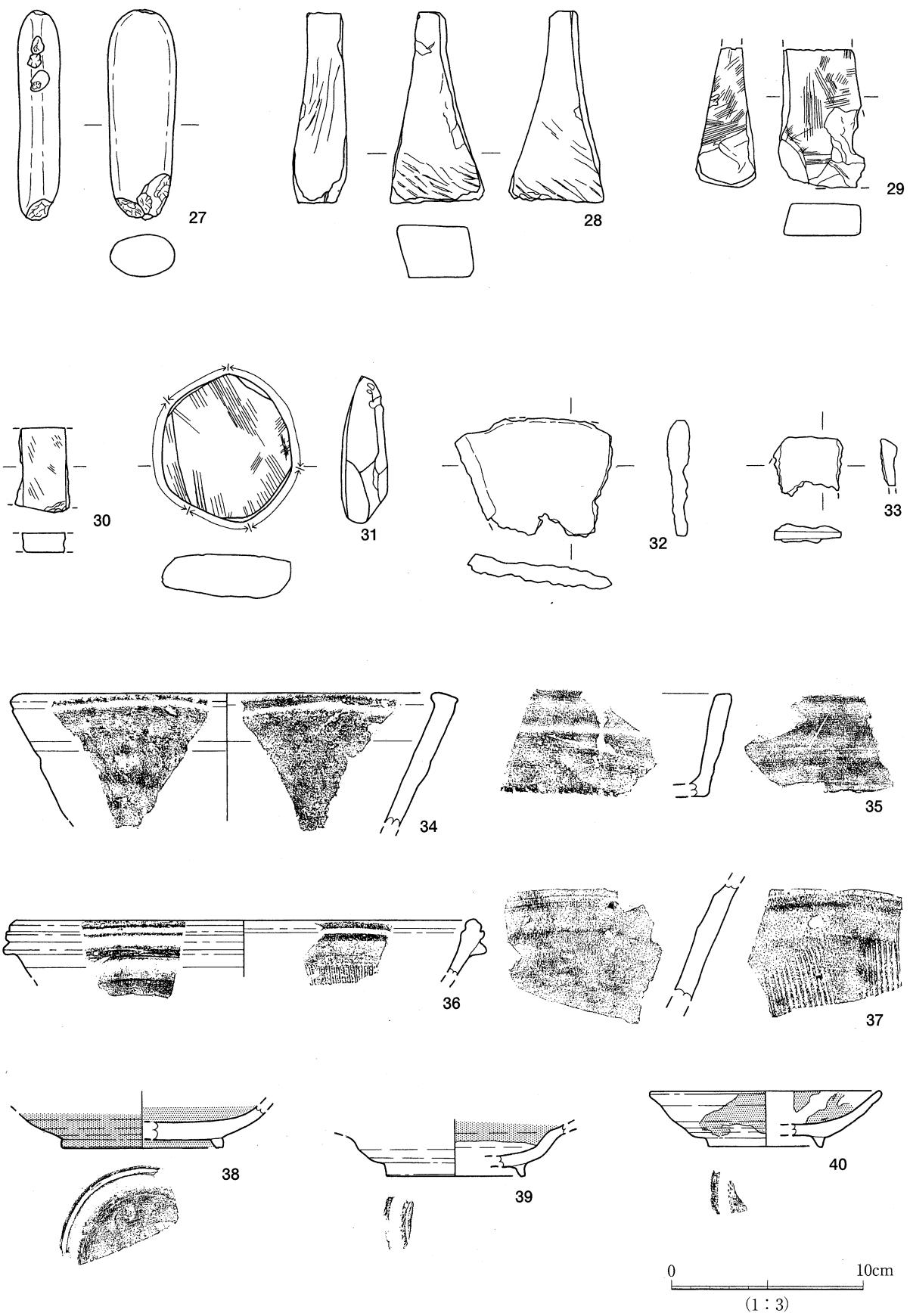
陶器の施釉は、灰施・緑釉・鉄釉・鋳釉等である。この他、青磁片（47）・軟質陶器（34・35）・焼締陶器（52）・土師質土器（42）である。産地別では、瀬戸美濃系2点（49・54）、志野系1点（44）、常滑系1点（52）、肥前唐津系2点（48・53）である。器種は、壺・碗・鉢・菊皿・天目碗・焙烙・香炉・仏花瓶・瓦片等である。この他に砥石5点（25・26・28・29・30）、敲石1点（27）、石製品1点（31）および鉄製品（32・33）2点を掲載したが、いずれも時期を特定することができなかった。



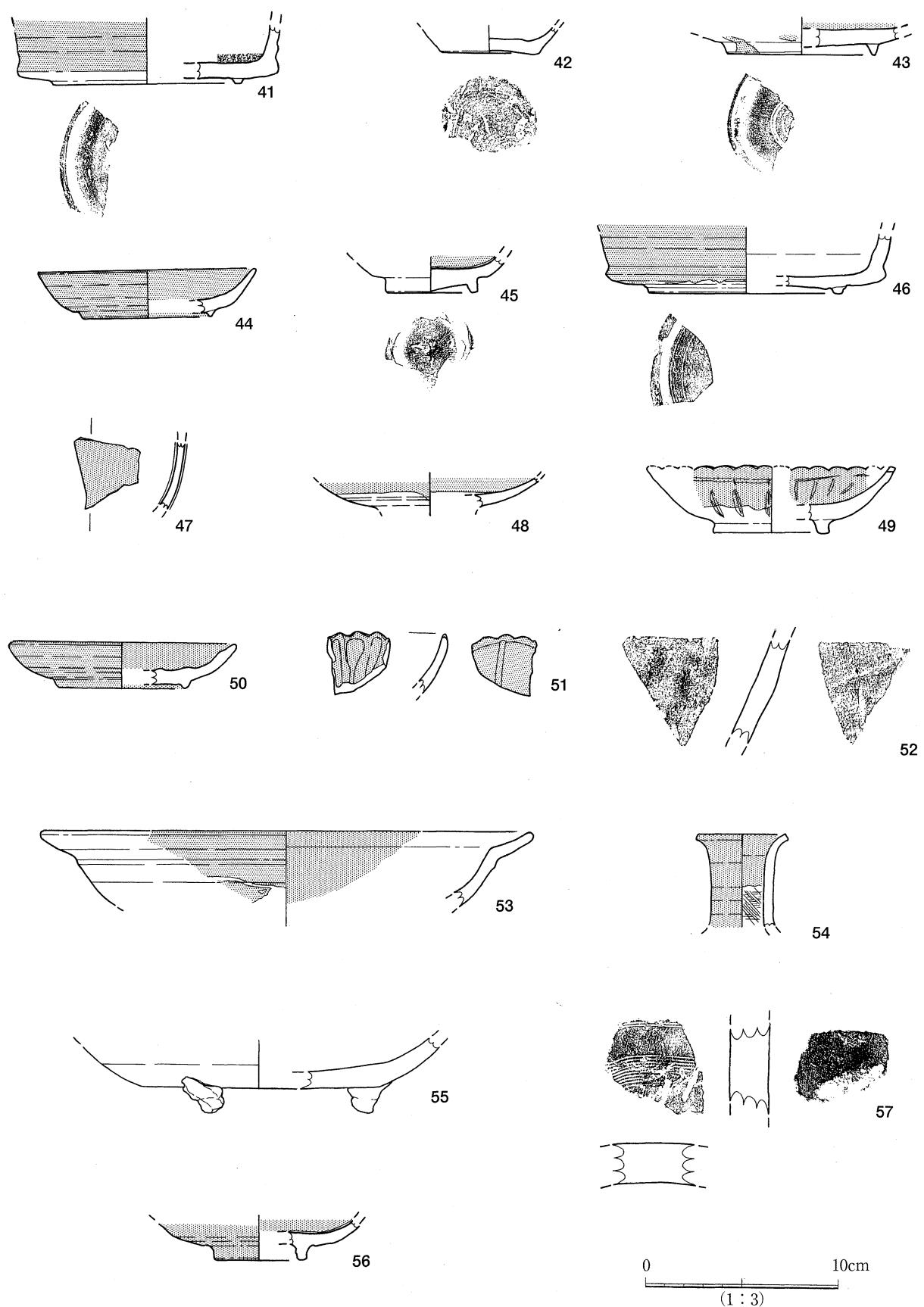
第15図 出土遺物①



第16図 出土遺物②



第17図 出土遺物③



第18図 出土遺物④

表1 石器観察表 ※括弧内の計測値は残存値である。

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	位置	石材	
1	有舌尖頭器	(8.1)	1.9	0.5	8.9	7 E グリッド	砂質頁岩	先端部欠損。
2	石鎌	(2.2)	2.1	0.4	1.6	5 F グリッド	黒曜石	凹基無茎。先端部欠損。
3	石鎌	2.8	1.5	0.2	1.4	7 C グリッド	砂質頁岩	凹基無茎。形状剣菱形を呈する。
4	スクレイパー	7.7	4.6	2.0	39.2	10 A グリッド	砂質頁岩	
25	砥石	12.5	14.4	8.2	2,420	4 G グリッド	安山岩	
26	砥石	9.3	18.4	4.1	1,200	1号河川跡	安山岩	表裏面非常に平滑である。
27	敲石	11	3.5	2.2	141.1	6 F グリッド	閃綠岩	表裏面非常に平滑である。
28	砥石	9.0	4.9	2.8	137.8	2号河川跡	流紋岩	4面に擦痕有。
29	砥石	7.3	4.6	3.1	99.4	2号河川跡	流紋岩	4面に擦痕有。
30	石製品	4.4	2.8	1.0	24.2	1号河川跡	角閃石安山岩	

表2 土器観察表 ※括弧内数値は残存値である。

番号	器種	口径	底径	器高	出土位置	胎土・焼成・色調	成形・整形の特徴
5	土師器片 台付甕	—	—	—	10 B グリッド	胎土：角閃石／焼成：酸化／色調：浅黄色	外面刷毛目。
6	土師器片 台付甕	—	—	—	10 B グリッド	胎土：長石／焼成：酸化／色調：明黄褐色	外面刷毛目。
7	土師器片 台付甕	—	—	—	10 B グリッド	胎土：長石／焼成：酸化／色調：にぶい黄褐色	外面刷毛目。
8	土師器片	—	—	—	9 B グリッド	胎土：長石、石英／焼成：酸化／、色調：黄褐色	
9	土師器片 高坏	—	—	—	7 C グリッド	胎土：長石、石英／焼成：酸化／色調：橙色	高坏脚部。
10	土師器片 甕	(14.5)	—	—	5 G グリッド	胎土：長石、白色粒／焼成：酸化／色調：明褐色	
11	土師器片	—	(6.9)	—	表採	胎土：長石、石英／焼成：酸化／色調：橙色	
12	土師器片 小型杯	(9.1)	(6.1)	1.9	9 G グリッド	胎土：長石、石英／焼成：酸化／色調：黄褐色	
13	須恵器片 甕	—	—	—	5 F グリッド	胎土：石英、粗砂、長石、結晶片岩／焼成：還元、硬／色調：灰色	轆轤成形。外面横ナデ、ヘラ削り有。
14	須恵器片 甕	—	—	—	7 E グリッド	胎土：白色粒／焼成：還元、硬／色調：明灰色	外面平行叩き、内面無文当て具痕有。
15	須恵器片 長頸瓶	—	—	—	9 B グリッド	胎土：堅緻／焼成：還元、硬／色調：灰色	轆轤成形。
16	須恵器片 坏	—	6.2	—	7 E グリッド	胎土：長石、角閃石／焼成：還元／色調：灰色	轆轤成形（右回り）。底部無調整回転糸切。
17	須恵器片 碗	—	(6.3)	—	6 F グリッド	胎土：長石、角閃石／焼成：還元／色調：灰色	轆轤成形。
18	須恵器片 坏	—	(7.1)	—	F グリッド	胎土：微細粒、黑色粒／焼成：還元、色調：灰色	轆轤成形。底部ヘラ削りか。
19	須恵器片 坏	—	6.2	—	表採	胎土：長石、石英、角閃石／焼成：還元色調：灰色	底面は摩耗著しい。
20	陶器片	—	10.4	—	6 F グリッド	胎土：堅緻、黑色粒／焼成：還元、硬、色調：灰白色	角高台貼付、内外面のみ施釉と考えられる（灰釉）。
21	陶器片 (碗)	—	(8.3)	—	6 F グリッド	胎土：堅緻／焼成：還元、硬／色調：灰色	轆轤成形、三日月高台貼付、内面見込み部を除き施釉（灰釉）。
22	陶器片 (碗)	—	—	—	表採	胎土：黑色粒／焼成：還元、硬／色調：灰白色。	高台貼付。灰釉。
23	陶器片 (碗)	(5.7)	—	—	6 F グリッド	胎土：堅緻／焼成：還元、硬／色調：綠灰色。	轆轤成形。灰釉。

番号	器種	口径	底径	器高	出土位置	胎土・焼成・色調	成形・整形の特徴
24	土錐片	—	—	—	9Bグリッド	胎土：角閃石、長石／焼成：酸化／色調淡黄色	
32	鉄製品	—	—	—	6Eグリッド		
33	鉄製品	—	—	—	6Eグリッド		
34	軟質陶器鉢 片	(24.3)	—	—	表採	胎土：白色粒、石英、赤褐色粒／色調：にぶい橙色	口唇部内側に突出する。
35	陶器片 焙烙	—	—	—	1号河川跡	胎土：角閃石、白色粒／色調：灰褐色	内外面に轆轤ナデ有。
36	陶器片 擂鉢	(24.0)	—	—	1号河川跡	胎土：石英、長石、白色粒、焼成：／色調：赤褐色	内面におろし目。外面に鋸状の突起と沈線2条。内面口縁部にも沈線有。
37	陶器片 擂鉢	—	—	—	1号河川跡	胎土：長石、白色粒、黑色粒／焼成：良／色調：極暗褐色	轆轤成形（左回転）。内面におろし目が刻まれている。鉄軸。
38	陶器片 碗	—	(8.1)	—	9Bグリッド	胎土：堅緻、黑色粒／焼成：還元、硬／色調：灰色	高台貼付。内外面に施釉（灰釉）。
39	陶器片 碗	—	(7.3)	—	9Bグリッド	胎土：堅緻／焼成：還元、硬／色調：灰白色	轆轤成形。高台貼付。体部内湾してたちあがり体部中位で外反する。内面に施釉（灰釉）。
40	陶器片 碗	(10.2)	6.0	2.9	1号河川跡	胎土：堅緻／焼成：還元、硬／色調：灰白色	轆轤成形。高台貼付。体部や外反してたちあがる。内外面に施釉（灰釉）。
41	陶器片 香炉	—	10.0	—	1号河川跡	胎土：堅緻、黑色粒／焼成：還元、硬／色調：灰白色	轆轤成形。高台貼付。外面に施釉（灰釉）内面に煤付着。
42	土師質土器	—	5.3	—	1号河川跡	胎土：石英、海綿骨針、白色粒／焼成：酸化／色調：灰白色	轆轤成形。底部回転糸切。
43	陶器	—	(7.8)	—	4Gグリッド	胎土：堅緻／焼成：還元、硬／色調：灰白色	見込み部に施釉（オリーブ灰釉）。
44	陶器 碗	(11.6)	(6.7)	—	1号河川跡	胎土：長石、白色粒／焼成：還元／色調：黄灰色	轆轤成形。外面に気泡有。志野系
45	陶器 碗	—	4.8	—	表採	胎土：堅緻／焼成：還元、硬／色調：灰白色	轆轤成形。削りだし高台。内面に施釉（鉄釉）。
46	陶器片 香炉	—	10.1	—	表採	胎土：堅緻／焼成：還元、硬／色調：灰白色	轆轤成形。高台貼付。体部外面に施釉（鉄釉）。
47	青磁片	—	—	—	2号河川跡	胎土：堅緻／焼成：還元、硬／色調：明緑灰色	ケズリ有。
48	陶器片	—	—	—	1号河川跡	胎土：堅緻／焼成：還元、硬／色調：灰色	轆轤成形。内面見込み部を除き施釉（緑釉）肥前系。
49	陶器片 菊皿	13.0	6.0	3.5	1号河川跡	胎土：堅緻／焼成：還元、硬／色調：緑灰色	底部より内湾して立ち上がる口縁部分蓮弁文。外面口縁部及び内面に施釉（灰釉）。瀬戸美濃系。
50	陶器片 碗	(12.1)	(6.8)	—	1号河川跡	胎土：堅緻、石英、白色粒、／焼成：還元／色調：緑灰色	轆轤成形。内外面に施釉（灰釉）気泡有。
51	陶器片 菊皿	—	—	—	1号河川跡	胎土：堅緻／焼成：還元／色調：緑灰色	轆轤成形。縱に沈線。口縁部蓮弁文。瀬戸美濃系菊皿。灰釉。
52	陶器片	—	—	—	1号河川跡	胎土：石英、長石／色調：にぶい黄橙色	焼締め。常滑系。
53	陶器片	(26.1)	—	—	1号河川跡	胎土：堅緻、白色粒、焼成：還元、硬、色調：褐灰色	轆轤成形。内面白化粧土と透明釉、外面に透明釉。唐津系。
54	陶器片 仏花瓶	4.8	—	—	4号河川跡	胎土：長石／焼成：還元、硬／色調：灰オリーブ色	オリーブ色釉（灰釉）。瀬戸美濃系。
55	陶器片 香炉	—	(12.4)	—	7Dグリッド グッド	胎土：黒色粒／焼成：還元／色調：灰白色	轆轤成形。脚高台貼付（推定三か所）。
56	陶器片	—	(4.9)	—	1号河川跡	胎土：長石、白色粒、黑色粒／焼成：還元、硬／色調：褐色	轆轤成形。内外面に施釉（錆釉）。
57	平瓦片	—	—	—	1号河川跡	胎土：粗砂粒、白色粒、黑色粒／焼成：還元、硬／色調：灰色	櫛齒状工具条線有。

第6章 まとめ

今回の発掘調査の成果で最も注目すべき点は、縄文時代草創期の尖頭器が出土した点であろう。地理的環境の項でも述べたが、前橋台地は、地形的・地質的な点から旧石器時代から縄文時代草創期にかけての時期は人間の居住には適しないと考えられてきた。事実、周辺においても旧石器はいうまでもなく縄文時代早期以前の遺跡の数はきわめて少ない。しかし、先述した、櫛島川端遺跡(1)の早期撫糸文土器片、徳丸仲田遺跡(2)の草創期微隆起線文土器片および徳丸仲田遺跡、砂町遺跡(3)および今回本遺跡での有舌尖頭器と少しづつ事例が増加しつつある。現時点では、まだまだ「点」の状態ではあるが、これまで空白とされてきた前橋台地における縄文時代早期以前の実態解明の端緒となるのではないかと考える。今後の調査結果に期待するものである。

第1面調査時には、北側において浅間B軽石に埋没した水田跡を検出した。しかし、調査区の大部分は浅間B軽石混土層という形であった。これは、本来もっと広範囲にわたって水田が広がっていたものと考えられるが、後世の耕作や圃場整備事業の影響で削平が進んだためではないかと推測される。

また、第1面調査時に浅間B軽石層下水田跡を検出した際、東西方向に柵列状にならぶピット列を確認した。ピット列の方向は第2面調査時に検出した掘立柱建物跡の長軸方向と一致している（座標北よりほぼ90度東）。この二つの遺構は調査の工程上、異なる確認面で検出されたものだが、埋没土の層位的特徴等より考えて、ほぼ同時期に機能していた可能性が高い。また、1号柵列跡の周囲にはピットが検出されており、調査の際、明確にはできなかったものの、掘立柱建物跡が存在していた可能性が十分考えられる。さらに1号掘立柱建物跡の付近で井戸跡が検出され、河川跡からは破片ながら中世から近世にかけての擂鉢、焙烙、砥石、青磁、陶器等が検出されたことからも生活空間が存在していた点は否定できない。これらの点より、居住空間あるいは倉庫として掘立柱建物が機能し、周囲を囲む形で柵列が存在していたのではないかと推測されるのである。また、先述した河川跡は人為的に掘削され、用水路としてかなり後々まで機能していた可能性がある。したがって、河川跡と遺構とが有機的に関連していた可能性も十分首肯することができよう。なお、今回の調査は調査区域が狭く、限られた資料しかえられなかつた。本遺跡でとりあげた掘立柱建物跡や河川跡の広がりを明らかにするためにも、今後周辺地域における発掘調査の成果に期待するものである。

この他、第2面の浅間B軽石混土層調査時に小規模ながらHr-F A降下以前に構築されたと考えられる古墳時代の溝跡を検出した。ただし、今回の調査では遺構の周辺で当時の水田跡等を確認できなかつたために溝の具体的な機能面については解明することができなかつた。

【参考文献】

- (1) (財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『年報13』『年報14』『年報15』 1994年・1995年・1996年
- (2) (財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団 『年報17』 1998年
- (3) 玉村町教育委員会中里正憲氏の御教示による。
 - ・高崎市遺跡調査会・高崎市教育委員会 『元島名瓦井遺跡』 1995年
 - ・高崎市遺跡調査会文化財調査報告書第59集 『上中居西屋敷II遺跡』 1997年
 - ・前橋市埋蔵文化財発掘調査団 『横手湯田II遺跡・西田II遺跡』 1998年
 - ・前橋市埋蔵文化財発掘調査団 『宮地中田遺跡』 1997年

抄 錄

フリガナ	ニシダサンイセキ ハックツチョウサホウクショ
書名	西田Ⅲ遺跡 発掘調査報告書
副書名	都市計画道路横手鶴光路線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	井野誠一・宮内毅（前橋市教育委員会文化財保護課）近藤晋一郎（山武考古学研究所）
編集機関	山武考古学研究所／〒286-0045 千葉県成田市並木町221 TEL0476(24)0536(代)
発行機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団／〒371-0007 群馬県前橋市上泉町664-4
発行年月日	西暦1999年3月19日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ニシダサン 西田Ⅲ	群馬県前橋市 鶴光路町332-1他	10201	10G-31	36° 19' 55"	139° 06' 07"	1998.11.05 1999.03.19	2,095 m ²	都市計画道路 改良事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な出土遺物	特記事項
西田Ⅲ	水田跡	古墳時代 平安時代 平安時代末～中・近世	浅間B軽石層下水田跡 掘立柱建物跡2棟、 柵列跡1基、 溝跡8条、 土坑5基、 井戸跡1基	遺物総量は大型収納箱3箱 縄文時代草創期：有舌尖頭器、石鏃 古墳時代：S字状口縁台付甕 平安時代：土師器、須恵器、灰釉陶器 中・近世：青磁、瀬戸美濃系・志野系・ 常滑系・肥前唐津系陶器	

写 真 図 版



周辺の地形（国土地理院作成、平成6年11月10日撮影 上が北 S=1：12,500）

PL 2



調査区南側 第2面全景（空撮）



調査区北側 第1面全景（空撮）



調査区南側 標準堆積土層 (E→)



調査区北側 標準堆積土層 (S→)

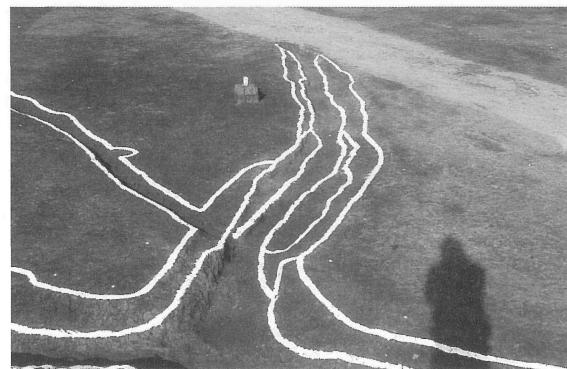
PL 4



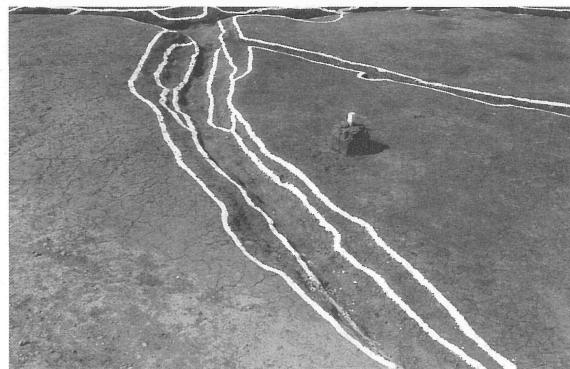
2 · 8号溝跡全景 (SE→)



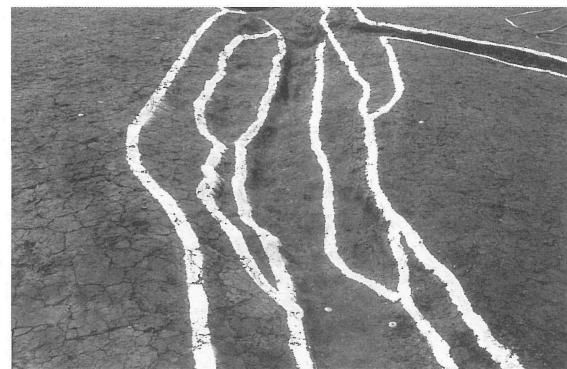
6号溝跡 (SE→)



6号溝跡 (SW→)



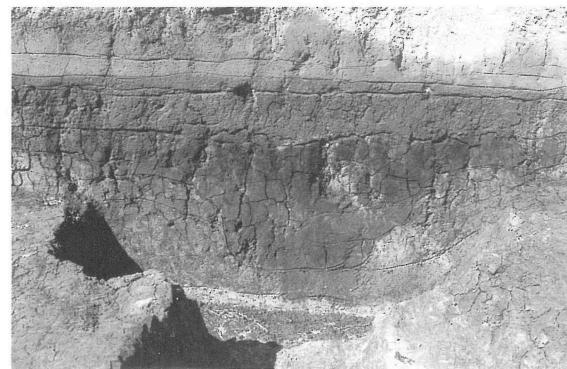
6号溝跡 (N→)



6号溝跡 (N→)



6号溝跡合流点 (S→)



6号溝跡西壁断面土層堆積狀況 (SE→)



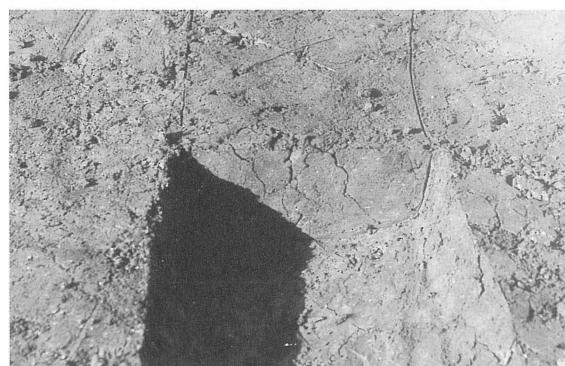
6号溝跡西壁断面土層堆積狀況 (SE→)



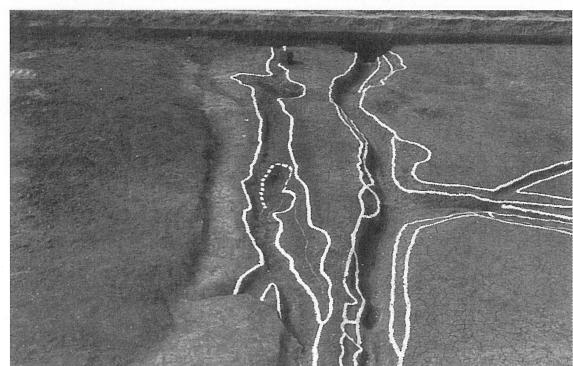
6号溝跡土層堆積狀況 (S→)



7号溝跡 (S→)



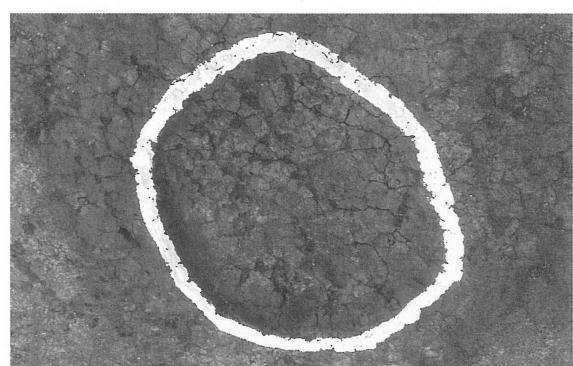
7号溝跡土層堆積狀況 (N→)



6 · 8号溝 (SE→)



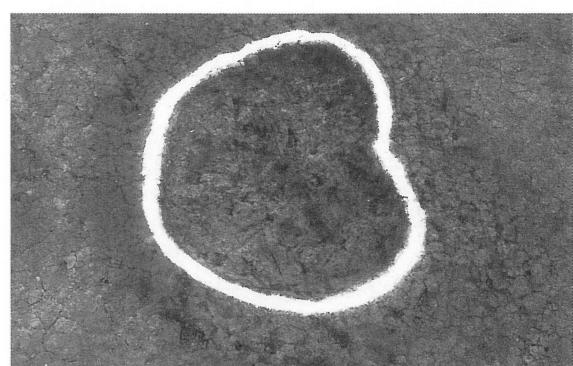
6 · 7 · 8号溝跡 (SE→)



4号土坑 (E→)



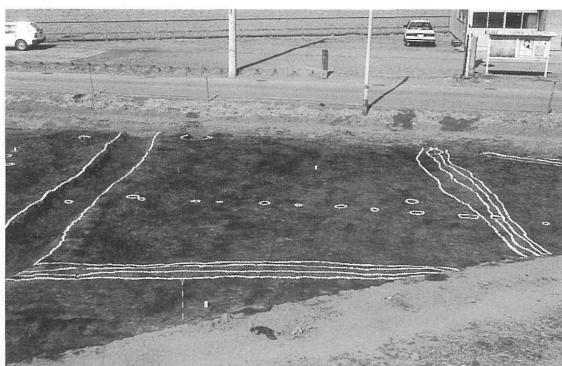
4号土坑土層堆積狀況 (S→)



5号土坑 (N→)



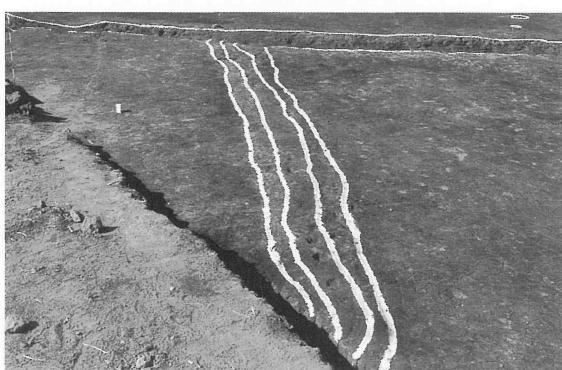
浅間 B 軽石層下水田跡全景（空撮）



浅間 B 軽石層下水田跡 (S→)



浅間 B 軽石層下水田跡 (S→)



浅間 B 軽石層下水田跡 1号畦畔 (E→)



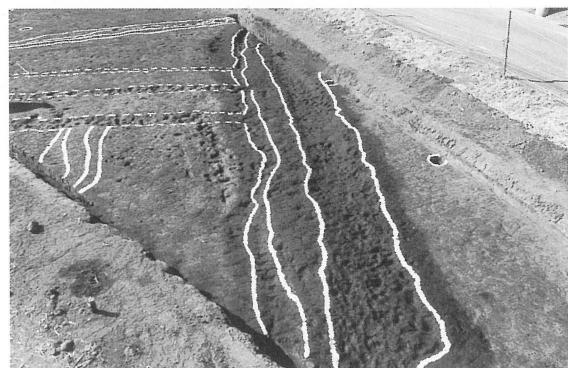
浅間 B 軽石層下水田跡 2号畦畔 (S→)



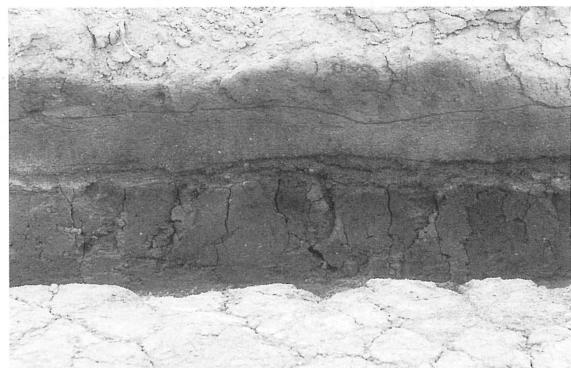
2号畦畔 (N→)



3号畦畔 (E→)



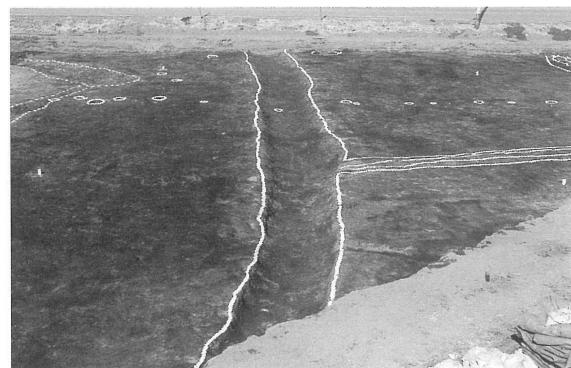
4号畦畔 (E→)



1号畦畔東壁断面土層堆積狀況 (NW→)



4号畦畔東壁断面土層堆積狀況 (NW→)



3号溝跡 (S→)



3号溝跡北壁断面土層堆積狀況 (S→)

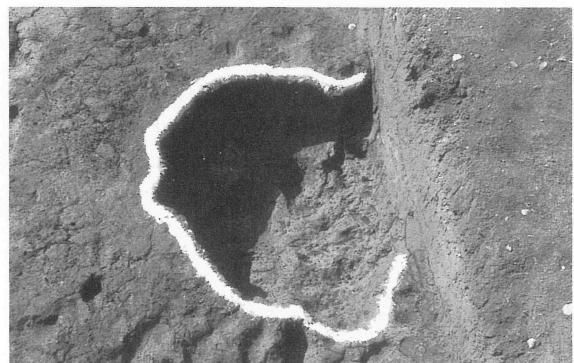


3号溝跡東壁断面土層堆積狀況 (N→)

PL 8



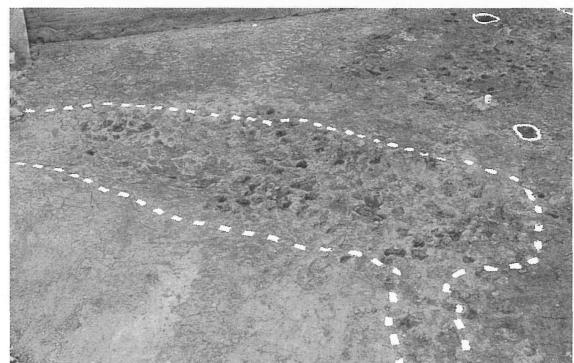
5号溝跡全景 (S→)



2号土坑 (E→)



2号土坑土層堆積狀況 (S→)



浅間 B 軽石層下水田跡凹凸集中部分 (S→)



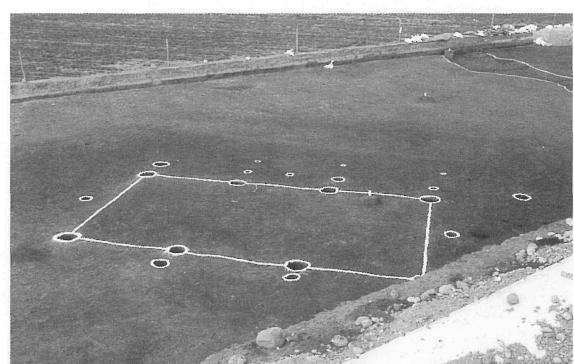
浅間 B 軽石混凝土層下 (SE→)



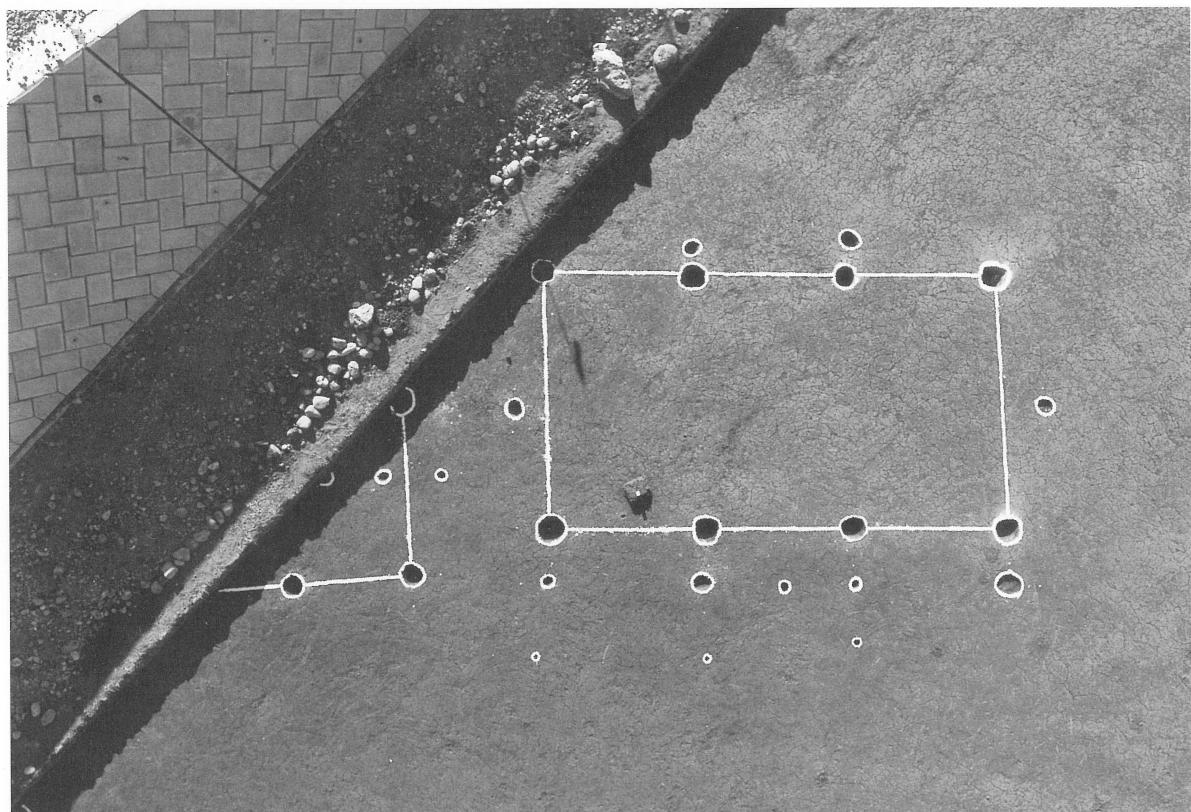
浅間 B 軽石混凝土層下 (S→)



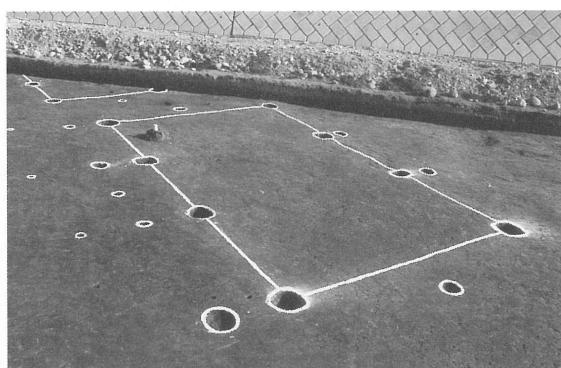
浅間 B 軽石混凝土層面西壁土層堆積狀況 (SE→)



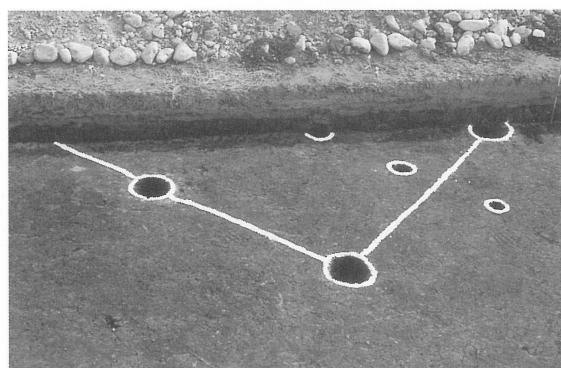
1号掘立柱建物跡 (S→)



1・2号掘立柱建物跡全景（空撮）



1号掘立柱建物跡（W→）



2号掘立柱建物跡（W→）

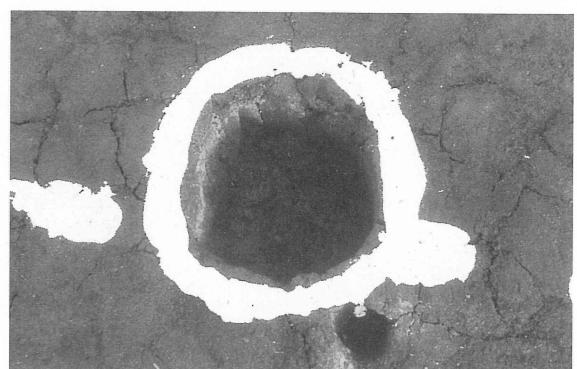


1号柵列跡（W→）

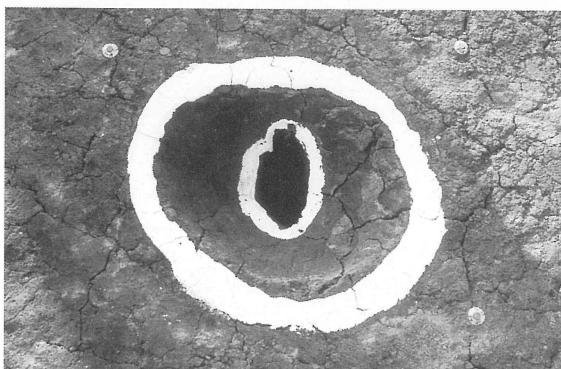
PL10



ピット土層堆積状況 (W→)



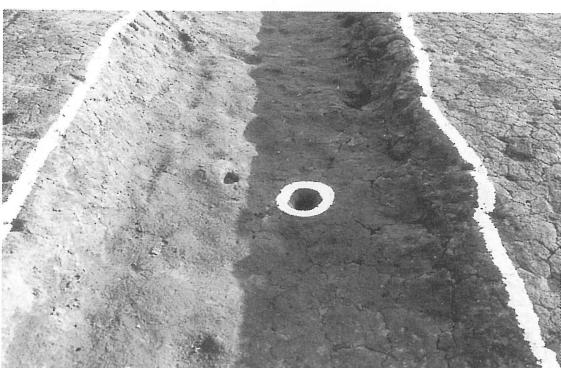
柵列・3号ピット完掘状況 (S→)



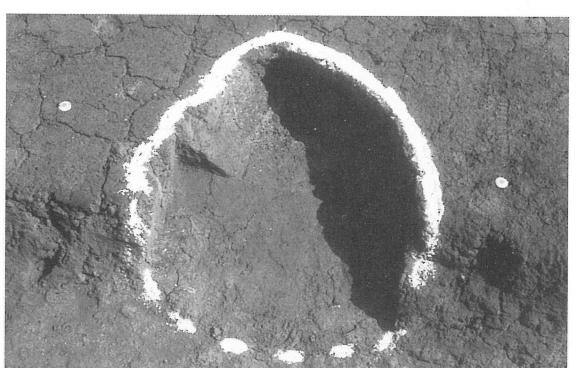
柵列・15号ピット 完掘状況 (N→)



2号畦畔内ピット (W→)



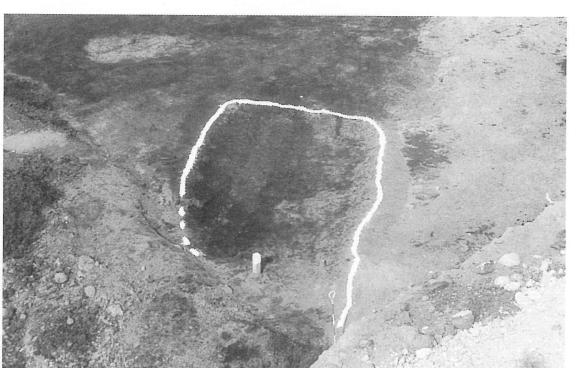
柵列・3号溝内ピット (N→)



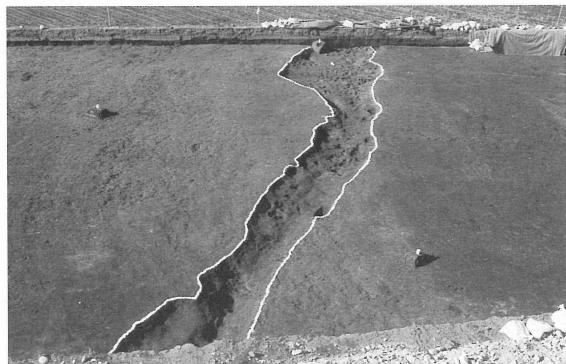
1号土坑 (W→)



1号土坑土層堆積状況 (W→)



3号土坑 (S→)



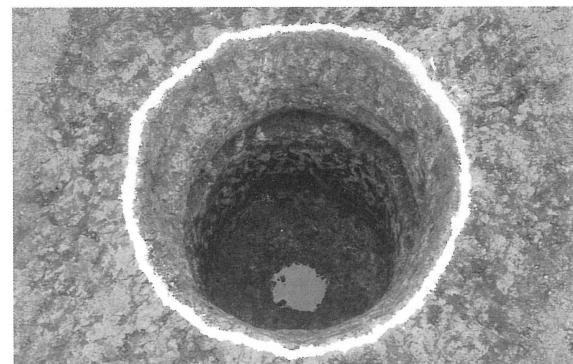
1号溝跡 (SE→)



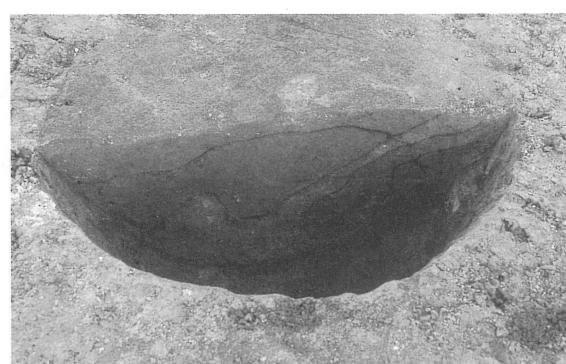
1号溝跡東壁断面土層堆積状況 (W→)



1・2・8号溝跡 (E→)



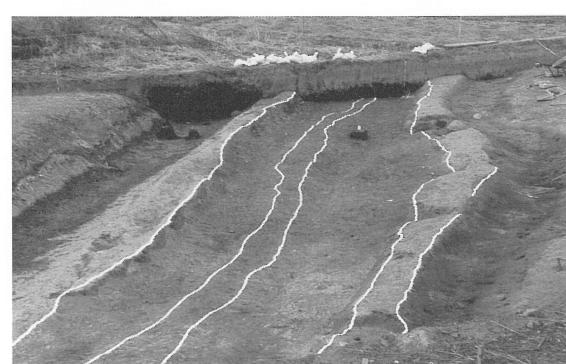
1号井戸跡 (E→)



1号井戸跡土層堆積状況 (S→)



1・2・3・4号河川跡 (S→)

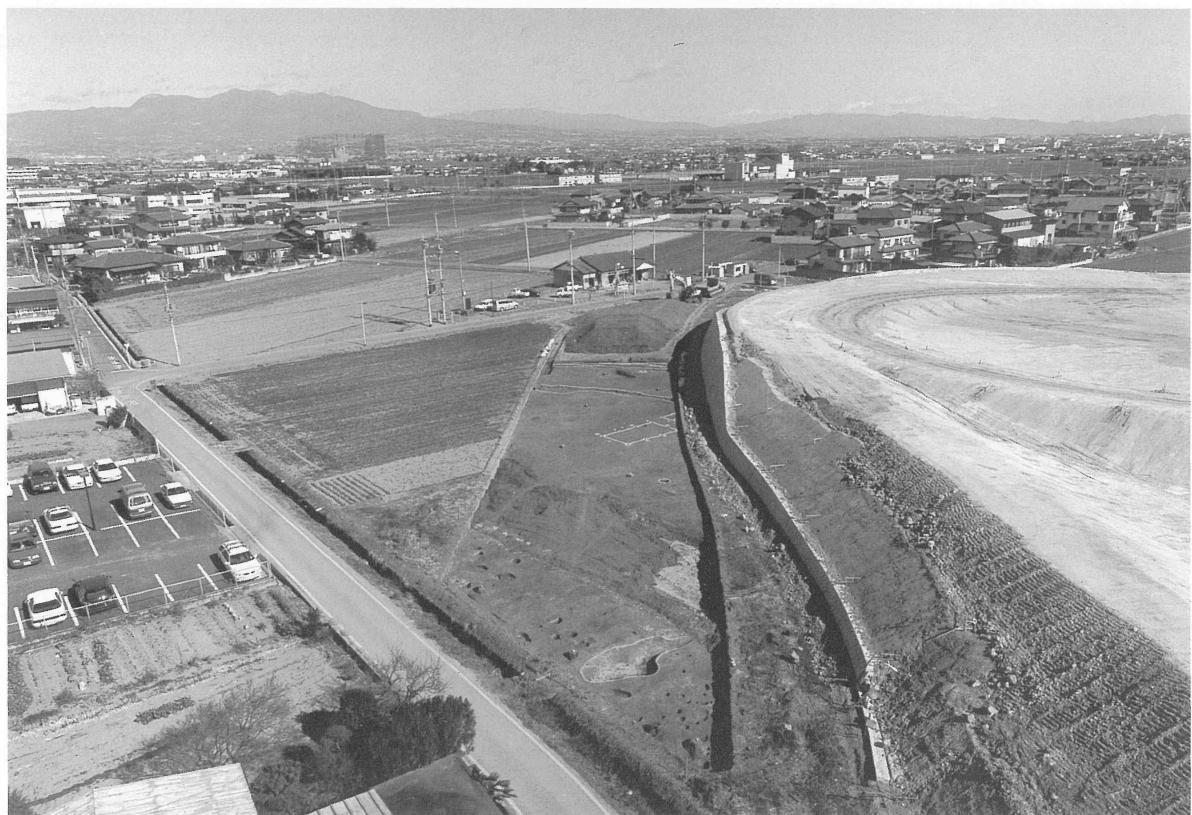


1・2・3・4号河川跡 (S→)

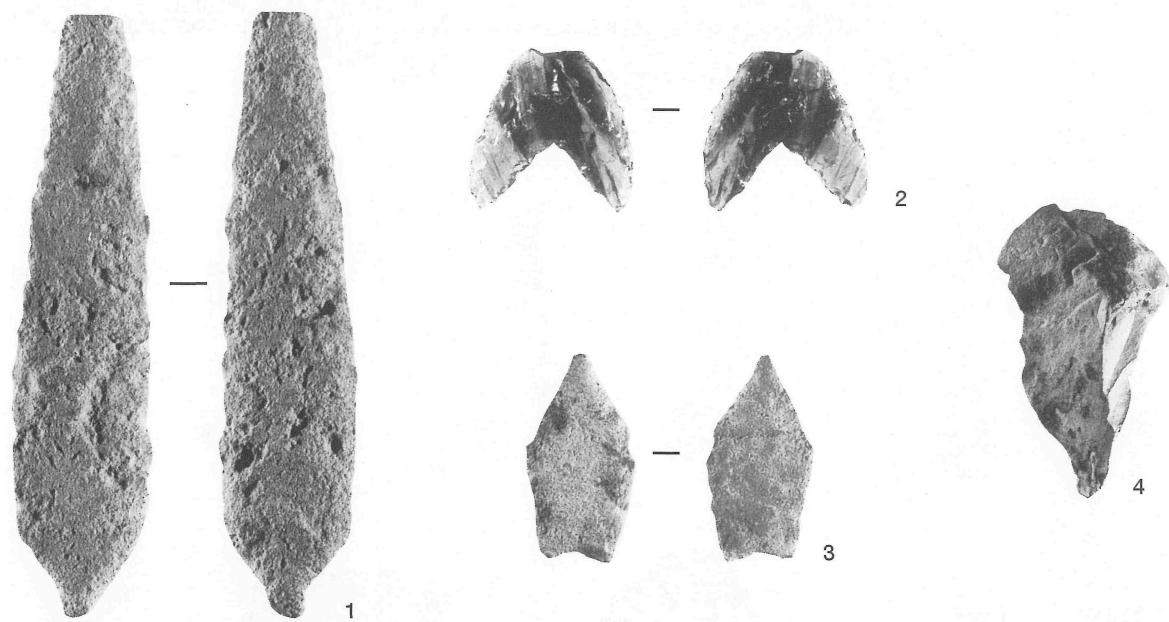


3号河川跡土層堆積状況 (S→)

PL12

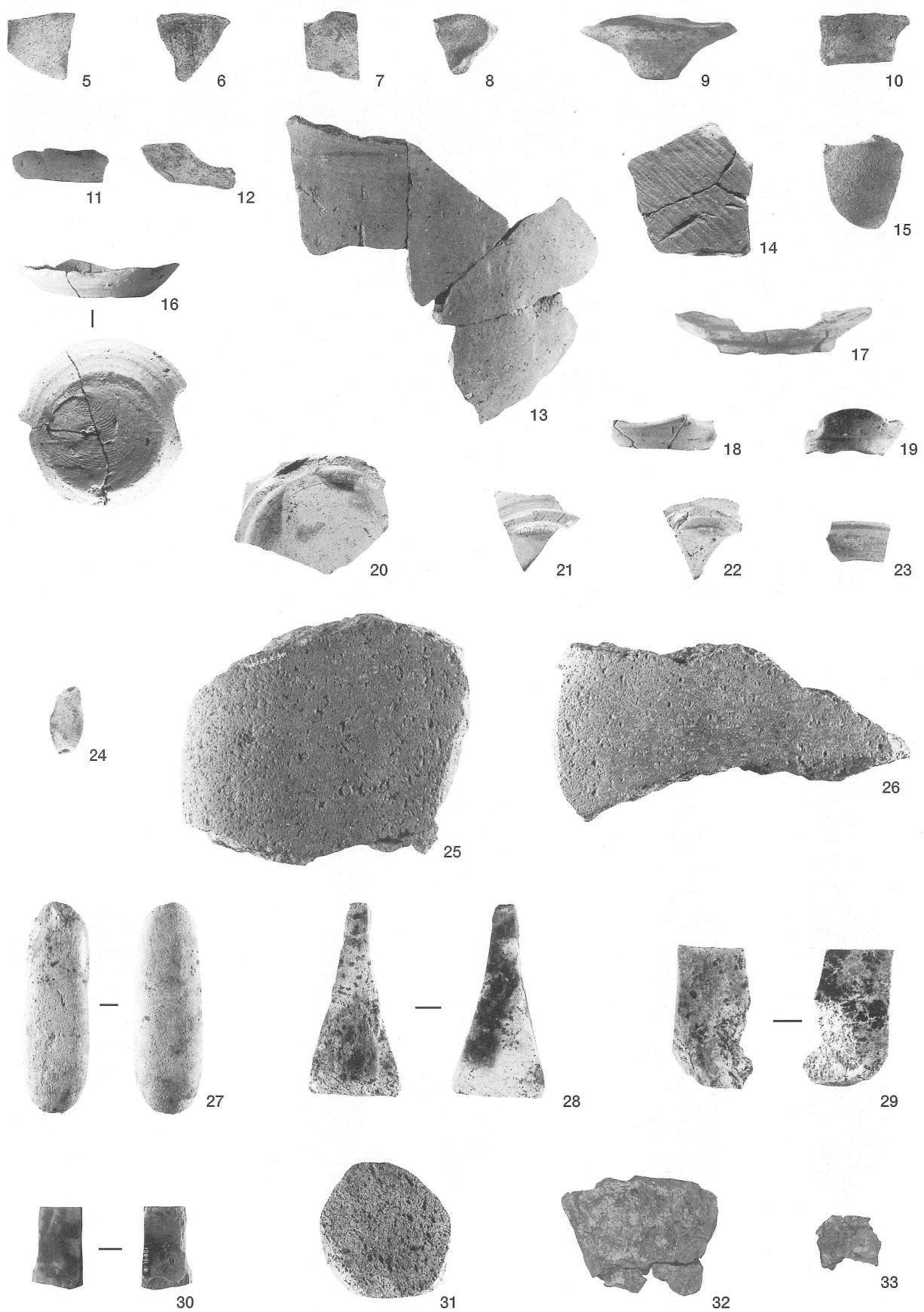


調査区より赤城山を望む (SW→)



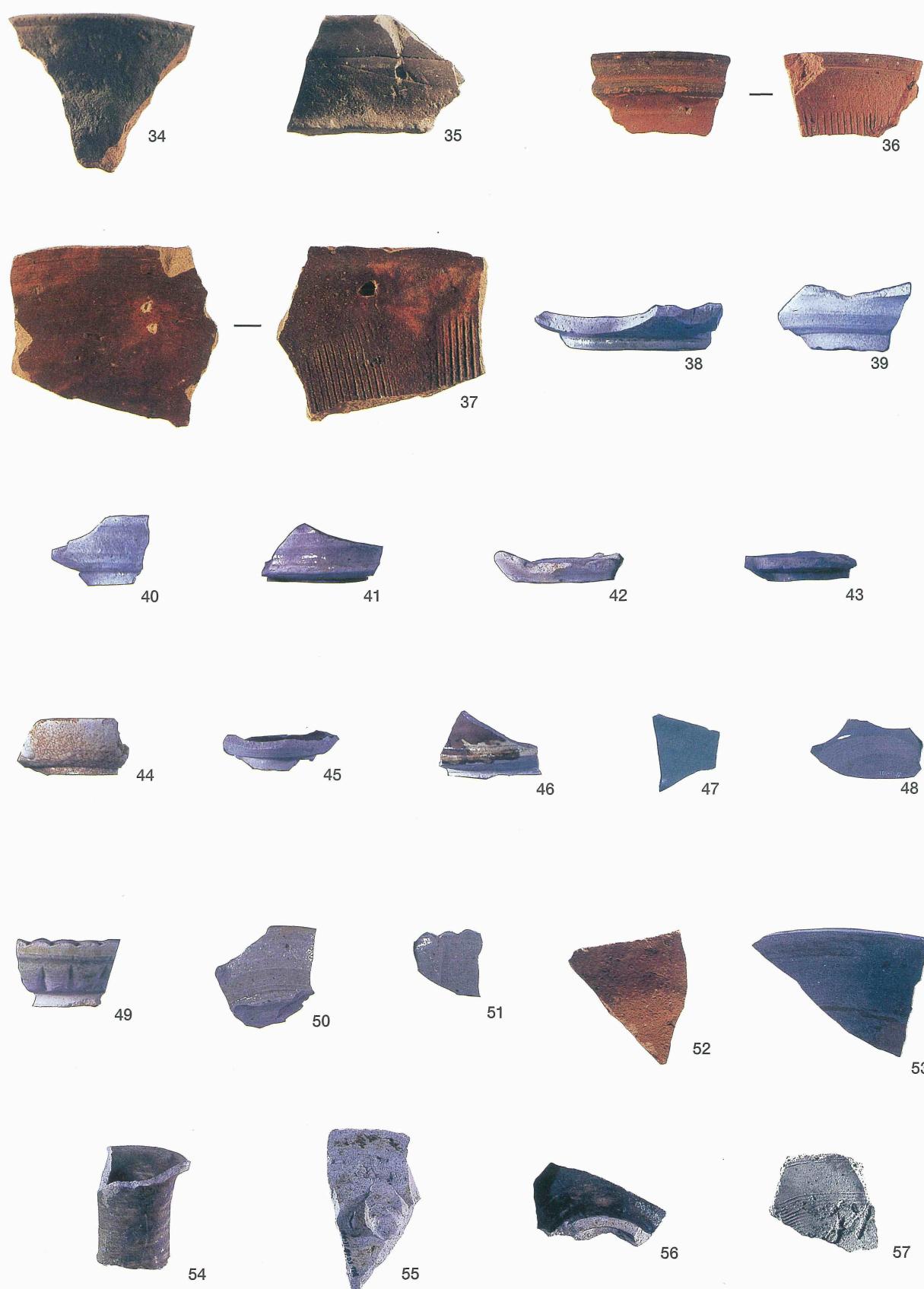
出土遺物 ①

PL13



出土遺物②

PL14



出土遺物 ③



都市計画道路横手鶴光路線道路改良事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

西田Ⅲ遺跡

印刷 平成11年3月15日

発行 平成11年3月19日

編集 山武考古学研究所
☎ 0476(24)0536

発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
☎ 027(231)9531

印刷 (株) 文化総合企画
☎ 0476(93)0593

